

ほっとファミリーは養育家庭の愛称です。

養育家庭(ほっとファミリー)
体験発表集
(平成26年度)



都ロゴ

東京都福祉保健局少子社会対策部

「養育家庭(ほっとファミリー)体験発表集」の発行にあたって

都内には、様々な理由で親と一緒に暮らすことのできない子供が約4,000人います。

都では、このような子供たちが、家庭的な環境の下で生活できるように、養子縁組を目的としない「里親」(養育家庭)の普及につとめています。

そして、多くの方に里親の制度を理解していただくとともに、里親になっていただけるよう、各区市町村と協力し、養育家庭体験発表会を開催しています。

この冊子は、平成26年度に開催された体験発表会において、養育家庭の皆さんに発表していただいた内容を要約し、冊子にまとめたものです。

里親になろうと思ったきっかけ、委託されていた時の元里子の思い、思いがけない出来事やあわただしい日々の様子などが描かれています。また、里子の赤ちゃん返りなどの問題や実子と里子の関係、里子を育てることゆえの悩みについても語られています。

しかし、そういったご苦労の中にも、子供が少しずつ家庭になじんで心が通じ合っていくのが実感でき、養育家庭をやっていて良かったという話や、悩んだ時に里親仲間や児童相談所の職員など周りの人から支えてもらった話など、里親(養育家庭)だからこそ味わえる子育ての素晴らしさにも触れています。

多くの都民の皆様にお読みいただければ幸いです。

平成27年9月

東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課長

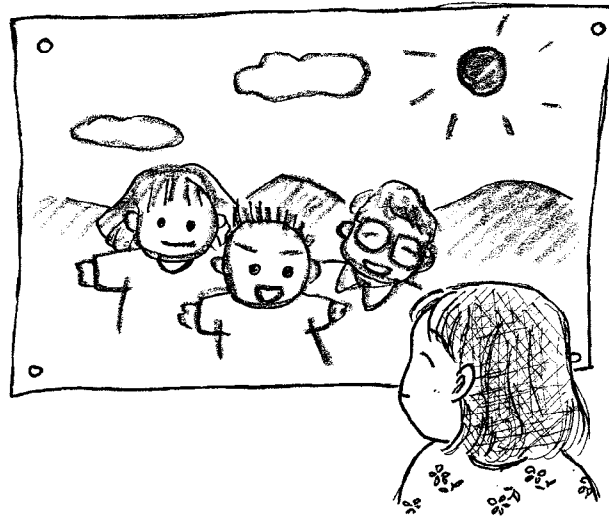
中 澤 知 子

目 次

1	子供は家庭の中で育つのが一番なのかな	2
2	当たり前家族	4
3	ママ良かったね	6
4	俺たちの居場所	8
5	里子と共に成長し続ける	10
6	漢字テスト0点→100点へ大躍進のT君と 「家出をしてでも来る」と言ってくれた兄弟	12
7	「うざい」「しつこい」「わかってる」ー 不登校を経験した思春期の我が家の里子	14
8	ありのままで... ..	16
9	名前のこと、生き立ちのこと	18
10	里子と一緒に成長中！	20
11	いろんな人に支えられて	22
12	独りぼっちにしない、ということ	24
13	私が思ういろいろなコト	26
14	宝物のタカちゃん	28
15	大人のバンビになる	30
16	新しい家族のかたち	32
17	共働き里親奮戦記～奮闘のさきに見えてきた幸せな絆・・	34
18	周りの方々に感謝！2人の子供に大感謝！	36
19	里親としての軌跡	38
20	子ども同士のかかわりで成長すること	40

養育家庭(ほっとファミリー)

体験発表会に、ようこそ！！



この体験発表集には、20組のほっとファミリーの方たちの養育体験がつづられています。

より多くの方々に、この養育家庭制度を知っていただき、ご理解と共感を得られることを、何よりも願っています。

そのことが、ほっとファミリーの方と、そこで生活する子供たちを支えることにつながるのです。

1 子供は家庭の中で育つのが一番なのかな

【里父】

長女が生まれて、4、5年ぐらいたってから、妻がひとりっこだとかわいそうだ、姉妹が欲しいという話がありました。妻も今から産むのも難しいしということで、養育家庭制度を知りかれこれ10年ぐらい経ちました。

養育家庭は一定期間、お子様を預かって、子供が18歳、高校生とかそのぐらいになって、自立するまで家庭の環境の中で育つということで、その中で学校ですとか、普通の生活の中で社会経験を積んで、ひとり立ちできるようにするための制度ということになるのです。養育家庭制度を知って、世の中に親の支援が受けられず児童養護施設で生活している子供がすごくたくさんいることがわかりました。私たちのような普通といえますか、一般にあるような家庭の中でもそういうお手伝いができるということで、それが社会貢献にもなるのであれば、いいのかなという感じでやっております。

家族構成は高校1年の実子、中学1年、小学1年の里子の3人の女の子がいる5人家族で、男は私1人なので非常に肩身の狭い思いをしています。

中学生、小学生の二人の里子をそれぞれEちゃん、Cちゃんということでお話しさせていただきます。2003年に養育家庭の認定を受けて、1年ぐらいてしてからEちゃんの委託の推薦を受けて、乳児院に行って交流が始まりました。最初は知らないお父さん、お母さんが来ているぞみたいな形で始まったのですけれども、乳児院に何回か足を運んで一緒に遊んだり、と交流を進めていくうちに近くの公園へ一緒に遊びに行くとかの時間をだんだん長く過ごしていくようになりました。その後外泊という形でおうちに遊びに来て、間もなく家庭で生活ができるようになりました。当初は勉強があまり好きではなく、やらせようとする「嫌々」と嫌がるような自己表現が子供にしては少ないなという感じはあったのですが、家の環境になれてくると普通に会話とかもできるようになり、環境に慣れてくればそういうことも少なくなってくるのかなという感じがいたします。

2009年ごろ2人目のCちゃんと交流が始まりました。最初はお父さんを避けるという傾向が強くて、まず、面会に行くと泣くんです。母親のほうにはすぐなついて、いつもくっついていくのですけれども、お父さんがどうも近づこうとするとすぐ泣いて、全然相手にしてくれないというような感じでした。大丈夫かなと思ったのですけれども、交流が終わって最後に帰るといときに、「じゃあ、タッチしようか」といって、Cちゃんは、ハイタッチみたいな形でタッチをして、やっぱり別れ際となると何となく気にはなっているようでした。なかなかそれが素直に出てこないというか、そういう形を何回か続けていました。妻と2人で行くとそういうことがあるので、たまに1人で行こうということになり1人で行ったのです。慣れてくると、やっぱり1人でも何とか大丈夫というような形になって、そのような交流を結構していました。

今となっては結局何だったのかよくわからないのですけれども、特に父性に対して子供ながらに強いイメージがあったのかなと思います。今は普通に抱っことかと言ってき

ますので、最初はそういう傾向があったのかなという感じがいたします。

施設で育っているせいかわからないのですが、物に対する執着心が少ないのかなと思いました。遊んでいる時、周りにある遊び道具はみんなものという傾向がちょっとあるのかなという気がしたのです。公園とかに遊びに行きますと、大体子供は自分たちで持ってくる砂場のバケツですとか、自転車とかはみんな個人個人のものという感じがあるのですが、Cちゃんはそこにある遊び道具は自分も使っているだろうと思っていました。「それはお友達のだから・・・。」みたいな話を教えながらやってきました。

食べ物とかでも、子供はおやつが好きだから自分でばかばか食べたりする傾向があったりするのですが、Cちゃんは「お父さん、お母さんも食べて。」みたいな形で、分け合うというのか、シェアをしようとするのです。実子はおやつとかが好きだから自分でばくばく食べちゃうので、「そういうのをちゃんと見習いなさいよ。」と、逆にそういうものを教えられたりもしました。

最近は殺伐とした事件も多いのですが、健全な家庭環境で育つことが一番大事なのかなと考えております。特に子供が「お母さん、愛している。」とか、私たちでも普段「愛している」なんて余り言わないと思うのですが、そういうことをさらっと言えるのは、本当の家族のあり方ではないかと感じております。

今年小学校に入ったCちゃんは、べらべら話すのは得意なのですが、字を書いたりするのが苦手かなというところがあって、学校に入ってから、平仮名をやって、みんな覚えてきているのですが、うちの子がちょっと遅れてきて、大丈夫かなと焦ったりしますが、それでも字とかを覚えてきて、最近になって一生懸命、折り紙の裏に手紙を書いてくれるのです。文章とかをちょっと書けるようになってくると、お父さん、ありがとうみたいなものを書いてくれるとすごくうれしいなというか、ありがたいなということがあります。結局は、普通の子育ての延長上にほっとファミリーがあるという感じで、それ自体は特別なことではないのかなと私は感じています。そもそも子育て自体が特別な時間なのではないかと思えます。私たちが今まで受け継いだことを次の世代へ伝えればいいのかと考えております。子供たちに意外と教えているつもりで、実は私たち自身も子供たちから教えられていることは結構あるのかなと思っています。

学業とか価値観とか、一人一人がすごく個性があって、これが正しいやり方だという回答みたいなものはないのかなと思っています。一人一人のそれぞれの個性に合わせてそれぞれのやり方があるのかなと感じています。子供自体が生まれながらの天才ではないのですが、そういういろいろな、自分の環境が変わってもそれに逆に柔軟に対応する能力はそもそも持っているわけです。それを私たちが伸ばしてあげるのが親の技量なのかなと思います。それなりの苦勞もあるのかなと思いますけれども、やはり子供は家庭の中で育つのが一番なのかなという感想があります。

2 当たり前の家族

【里母】

私は夫と、小学校4年の娘と小学校2年の息子の実子、そして3歳になる女の子の里子Mちゃんと5人で暮らしています。

登録後、息子が小学校に入学したのを機に、児童相談所から2歳半の女の子が紹介されました。実子の時もそうですが、お腹の子に障害があってもなくても子供は授かりたいと思っていましたので、里子についても、どんな子でも授かりものだと思って受けようと思っていました。実際、療育が必要な子で、歩くことはできるけれども、足がO脚とX脚がまじったような形だということでした。言葉も言っていることはわかるけれども、ワンワン、ブーブーとかであるとのこと。知的にも遅れがあるということだったのですが、主人と話して、すぐに受けようということになりました。

お話を頂いてから実際に会うまでの間、妊娠期間のように不安と期待とが入りまじった感じでした。でも、その子の写真を見た時に、不安がふっ飛んだと主人も言っていました。ああ、この子だと。すごく待ち遠しい気持ちだけに変わったとも言っていました。

交流初日は主人と私で乳児院へ行き、Mちゃんもこわばって緊張していました。乳児院の職員の方と他の子も入って30分ほど遊び、段々慣れてきて、最後バイバイをする時には泣いてくれたのです。主人は、すっかりMちゃんの虜になってしまいました。私は嬉しいと思う反面、これはどうなのかな？とも思いました。Mちゃんは生まれた時から乳児院で生活してきて、今日会った見ず知らずのおじちゃんとおばちゃんにすぐに離れたくないと…乳児院との愛着はどうなのだろうと心配、不安に思ったのです。しかし、そんな心配とはよそに、次の回からは順調に嫌がったり、固まったり、緊張したりというのが始まりました。徐々に打ち解けていくのがいいのだなと思って交流していきました。実子も連れていきました。私との交流だけでは見せない笑顔を娘に見せてくれて、娘も大喜びで、子どもの力はすごいなと思いました。

交流は、Mちゃんにとって初めてのことがいっぱいでした。スーパーでカートに乗る、エスカレーターに興味はあるけど怖くて乗れない…、ソフトクリームを食べた時の幸せそうな顔、高い高いとすると大泣きしたり…。

初めて家に来る前に、乳児院の方から「大きなお風呂でしか入ったことがなく、大人の裸も見たことがないので、少し手こずるかもしれないです。」と言われました。そこで私のトイレにMちゃんも入れて、私の裸をちょっとずつ見せてということを繰り返して、家での入浴に至りました。思いのほかスムーズに入ることができました。しかし、湯船に入った時、湯船の中で座れないのです。乳児院のお風呂では、職員は裸で一緒には入らないので、危険防止のため子どもはバスタブに立ってしか入っていなかったようです。我が家の湯船に肩まで入るということに、しばらくかかりました。それから、1泊、その次に2泊3日を過ごして、乳児院に送っていった際、大泣きだったのです。その大泣きは、初日交流の日にバイバイした時の大泣きとは違って、明らかに、私たちと

離れるのが嫌だと泣いてくれたものだったので、しっかり関係ができているなと思ってすごく嬉しかったです。

委託に至るまでの交流期間は、お腹に子供を授かって、次の健診に行つて様子を知り、また次までその子を思いながら、あれこれ考えて…ということを繰り返してだんだん関係が密になっていくという妊娠期間に似ていると思い、いい時間だったと今は思います。

実子との関わりについて、4年生の娘は、Mちゃんが可愛くて世話を焼きたくてしょうがないという感じで、Mちゃんも娘のことが大好きで一番頼れる存在となっています。しかし、Mちゃんが娘にひっかいたり、つねったり、叩く…というのが始まりました。娘はびっくりして、でも、仕方がないなと我慢はしますが、可愛がっているのに何で？という、すごく寂しい、悲しい思いをしていたようです。それを見て、「我慢しないでいいんだよ。『こんなことをする私でも好きなの？』と試されているんだよ。きょうだいだから我慢しないでいいんだよ。」と伝えたところ、娘もやり返すようになり、今では同じように戦っています。でも、戦った後、瞬時に仲よく遊んでいるのが不思議です。

地域とのつながりについては、ありのままに里子であることを伝えています。「どこから来たの、お父さん、お母さんはいるの？」と聞かれることもあります。「乳児院から来たんですよ。」と答え、細かいことは適当にはぐらかして、「みんなが声をかけてくれて、可愛い、可愛いと言ってくれるからどんどん可愛くなっていくんですよ。」と。実際にそうで、そう伝えるとどんどんみんな味方になってくれるのです。やっぱり都会よりも田舎の方が、裏では色々言われたりすることもあるかもしれないですが、それはそれでいいでしょうと思って、気にしないで堂々としているのがいいだろうなと思って楽しく暮らしています。

最後に我が家に来てからのMちゃんの変化ですが、とても怖がりだったのに、今では高い滑り台とか、ジャングルジム、危ない壁とかもどんどん登っていき、挑戦したい気持ちで満ち満ちています。遠くで鳴っている救急車の音や、風の音にもすごく敏感でしたが、それも今は全く気にならなくなりました。物を落としたり、失敗することが苦手でしたが、失敗したから大泣きすることもなくなりました。言葉は明瞭ではないですが、普通にべらべらと一日中よくしゃべっています。適当にうんうんと聞いていると、「えっ？違うでしょ！」と指摘されるくらいコミュニケーションもとれていますし、ありがとう、ごめんねが言えなかったMちゃんが、今では我が家で一番上手になりました。走って転びもしないように脚力も発達しました。

2歳の子が来たので、それなりに手はかかるし大変さはありますが、慣れてくるとMちゃんが成長していくことがとても楽しみで、とても可愛いです。常識というのはみんながそれぞれ勝手に作っているところがあると思います。今まで家族だけで暮らして当たり前だったのが、Mちゃんが来て当たり前、里子がいて当たり前となっています。これから色々なことがあって、みんなで成長していけたらいいなと思います。とても楽しいので、1人でも多くの子が家庭で過ごせるといいなと思います。

3 ママ良かったね

【里母】

私は、4人きょうだいの長女として賑やかに育ち、私自身も子どもを沢山持つて賑やかに子育てしたいと考えていたこと、職場で養育家庭のポスターを見たことがきっかけで里親になりました。夫は当初、様々な背景を持つ子どもを預かる責任の重大さから里親になることを渋りました。きょうだい欲しい娘は大賛成で、私と娘で夫を説得して、里親の認定前研修を受講しました。

その後2歳5か月の男の子、A君と会うことになりました。A君の写真を見たとき、この子と一緒に生活をするのだと思うと嬉しくて涙が出ました。乳児院に夫と娘と児童相談所の職員とA君に会いに行きました。A君は夫の膝に乗り、緊張している娘の手を繋いで人懐こくて可愛かったです。面会や外泊も順調で、3歳で家に来ました。A君は出生後乳児院で生活をしており、家庭生活が初めてでしたがすぐに慣れました。「アンパンマン」しか言えませんでした、皆で話しかけているとすぐに言葉が出始めました。

私は仕事を継続していたので、A君は保育園へ通いました。A君は、優しく人なつっこく器用で保育士さんも良く褒めてくれました。通園当初、オムツが取れず帰園時に沢山洗濯物を渡されました。食事のマナーが少し悪く、隣の子の分を食べ、家でも吐くまで食べました。語彙も少なくコミュニケーションがうまく取れず、娘も私もイライラしていました。私はA君の母親になろうと一生懸命だったのですが、可愛くないとまで思う事もあり、自己嫌悪で落ち込みました。児童相談所の職員に「娘さんを一番に思って接して下さい。」と言われ、肩の力が抜けました。娘との時間を作り、余裕が出たことで、A君の長所や強みを私も心から褒められるようになりました。A君は玄関の開錠が出来るようになると、勝手に外出してしまいました。慌てて交番に迎えに行くと、A君は「ママ、ここ。」、「ママも一緒にどら焼き食べて。」なんて言うんです。おまわりさんとも顔馴染になり、家まで送ってもらう事もありました。娘は「A君が来て皆で笑うことが増えたね。」って言うてくれました。

A君には、乳児院で育ったこと、別に実母がいることを年齢に合わせた話し方で伝えています。低学年の頃は実母に会いたがりでした。実現しませんでした、写真を1枚もらいA君は宝箱に保管しています。

里親になることに渋っていた夫は、今やA君の一番の遊び相手で理解者です。

A君が我が家に来て「新たな家族になる」ということは、「家族」としてみんなが0歳だったのだと思います。

A君が小学校2年生、娘が高校1年生の年、小学校6年生のB君を小学校卒業まで半年間預かりました。A君は「お兄ちゃん来る。」と大喜びでした。B君は、私より背が高く表情が無く静かにうつむいていました。B君は、我が家に来ることを児童相談所の職員から「ホームステイみたいなもの」と説明されたそうです。私も、両親がいるB君に下宿先のおばさんのように接しようと思いました。

B君の小学校に挨拶に行き、B君の靴の棘を私が取り除いたら「初めてしてもらった。」と言いました。甘える経験が少なかったのだ、と驚きました。そんなB君が私たちを父さん、母さんと呼びたいと小さな声で言った時、嬉しくて可愛かったです。先生方がサポートしてきたことを知り、私もB君のサポートチームの一員になろうと思いました。

食べ盛りのB君が来ると、用意する食事量が増えました。買い物の際は、B君が小さい声で「母さん、俺が持つよ。」と言うとA君も「俺も持つ！」と2人の息子が荷物を持ってくれました。息子たちと歩くのが本当に幸せでした。B君は、下校後宿題を終わらせゲームをして食事を良く食べ、A君と一緒に風呂に入り、2人で寝てくれて助かりました。家族5人分の餃子を40個作った時、B君が1人で30個程食べました。それを見て皆でびっくり！B君は皆で食卓を囲むという経験が少なかったようで、「家族の人数に配慮しながら食べようね。」と話しました。大人しかったB君も、学校や家族のことを話してくれるようになりました。B君が学校の友達を家に大勢連れて来て、驚いたことがあります。彼が「してみたかったこと」だったそうです。休日は夫と息子達は公園にサッカーに行きました。

B君は、家に来て1か月後に元の家族と面会し、2か月後に外泊をしました。家族に家に戻りたいという思いをぶつけ、喧嘩して落ち込んでしまいました。A君に意地悪をし、私との会話が減りました。私は、学校や児童相談所の職員とB君が小学校を卒業するという目標に向け、「サポートチームとして出来ることをしよう。」と役割分担をしました。私は口うるさくせず、B君が帰宅したらご飯を食べ、お風呂に入って寝るという普通の生活をし、話したい時に話を良く聴こうと心掛けました。B君は無事小学校を卒業し、家族の元に戻りました。現在は「医者になりたい。」と、勉強中です。家族の元に戻って2年経ちますが、今も夏休みに手土産を持って遊びに来ます。私は親戚のおばさんのような気持ちで彼の話を聴いています。

一方、A君は家に来て7年経ち4年生になりました。今も「俺が来て良かった？俺が好き？」と確認してきます。私は「とても良かった。大好き。」と答えます。昨日は「世界で誰が一番好き？」と聞かれました。「A君だよ。」と答えると、「お姉ちゃんとどっちが好き？」と比べられないことも良く確認をしてきます。娘は「あと3年もすれば言ってもらえない。ママ良かったね。」と言います。少し口が悪いのですが、娘も姉として成長しました。

私たち夫婦の目標は、娘と同様A君を自立させて社会へ送り出すことです。家庭を持って欲しいですが、叶わなくても「この家族は良かった。」と思ってもらえたらと願っています。子ども達に関わることで、私自身様々な経験をし成長しました。「里親は本当に苦労する。」と聞きますが、苦労以上に良い事を沢山もらいます。もし迷われている方がいたら、児童相談所に相談に行ってみてください。

4 俺たちの居場所

【元里子】

ご紹介していただきました〇〇です。あまり話がうまくないのですが、聞いてください。

まずは、自分の生い立ちについてですが、ざっくりいうと、4歳か5歳くらいに両親を亡くし、親戚に行っただめで、養護施設に行っただめで、里親さん1個目行っただめで、また施設2個目行っただめで、最終的にファミリーホームのAさんというところに行っただめで何とかなりました。自分はあまりにも環境が変わる中で一番は、世の大人なんか信用できねえみたいなのがあった。あまりにも変わってしまうので、誰を信じていいのかわからないのがあった。根の張り方がわからないですね。

施設とか、里親家庭を経験した中で、何で変わったのかとよく聞かれるのですが、里親さんたちが昔気質で、悪いことは悪いで厳しく教えてもらおうという、当たり前でいることで変わってきたのかなって思ってます。学校をやめるときも、あいつは何もやってないんですよ、みたいに頭を下げてくれたことを覚えていますね。何でこの人、わざわざ俺のために頭下げてんの、変なのとか思ってましたけれども、そういうものを見せてくれたことで、何かうまく言えないけど、そういうことがあったから自分が少しでも前向きに考えられるようになったきっかけになったのかなと思っています。

Aさんのところへは、自分が一番はじめに入ってしまったというのもあって、何だかんだ後に来る里子たちを弟分みたいに思っていて、自分が一番に失敗してきた代表なので、いい意味で自分が失敗したのを弟分たちに失敗してほしいなというのを思って接していると、あまりしゃべらなかつたり、笑い方を知らないのかなと思うようなやつが笑ってくれるようになるのを見て、自分の存在価値があったかなと思っています。子供たちは子供たち同士でお互いを高めていくというのはファミリーホームというところゆえの良さだったのかなと思います。

自分が、まず、この場で皆さんにわかってほしいなということは、里親さんになることは、自分には難しいと思ってほしくないなと思います。自分の子を育てるのと同じ、いや、それ以上に多分大変だと思いますが。自分も迷惑はいっぱいかけました。お試し行動だ、愛着障害だと、今思うとそういうことだったなと思うのですが、やっぱり甘えたいんですよね。その甘え方も知らないし、失敗を仮にしたとしても、受け止めてもらえる場所がないやつもいる。要するに自分と同じような立場の子を見ると、愛情を欲しがっているというか、表面的に見えない何かの傷というのがある。自分が選んだ人生じゃないのに、大人に変な理解で、おまえ、かわいそうだなと言われたことは正直、自分にもあるのですが、何でそう思われるのだろうかというのはすごくありました。その中で、自分の場合は親友が良かったのか、理解してくれるやつがいたから良かったです。

自分の周りにも施設で育った子がいます。かわいそうだなとは思わないのですが、社

会に出て、多分、今、つらい経験してるんだろうなと思うことがあるのです。それは、施設はどうしても職員さんが、週替わり、日替わりで変わってしまうので、対人関係の中で絆をすごく築きにくいというのです。自分は、施設で経験してきた中でなぜ里親がいいかという、施設では正直、いいところももちろんあるのでしょうけれども、俺の感想は、右向け右という感じですかね。いっぱい人数がいるのです。どうしてもルールに縛られなきゃいけないというのが自分の印象でした。

施設の職員の方とも話をしたことがあるのですが、いくら熱意を注いだところでも、18歳で措置解除というのが決まっているので、その後はあまり関係が続けられないというのです。子供たちにとって、施設の先生たちが、自分が描く親のビジョンになるかという、俺はそうじゃないと思うのですよね。里親がいてくれるか、いてくれないかだけで、世のくだらないニュースはなくなるんじゃないかと思うくらい、自分にとってはAさんの存在はでかいです。里親さんのところの家庭環境というのがどれだけ大事かということ伝えたいです。里親さんで良かったことなのですが、近所のおじさんとかが、あまりにも自分が突拍子もない行動というか、迷惑をかけてしまったときに、注意してくれたというのはすごく自分にとって、今さらですけども、良かったなと思います。

今、自分たちで社会的養護を経験した子たちが社会に出ても失敗したときに居れる場所という居場所づくりで、下宿屋〇〇というのをつくっているのですが、それも実はAさんのところの延長で、正直、養育家庭というのは18歳までで国が決められているところなので、その後は養子縁組を組むか、あとは措置延長といって、更に1年か2年くらい続けることしかできないのですよ。そういうルールのところはうまくわからないのですけれども、長く養育家庭にいた、短く養育家庭にいたとかは関係なしに、どうしても傷とか、そういうものもあると思うのですけれども、社会に出てもうまくいかないやつはうまくいかないのですよ。だから、そういうやつらの居場所というのですか、ただいまと言える場所みたいなものがあつたらいいなというのをつくったのです。

Aさんのところの自慢話なのですが、お父さんは帰ってきたときに、当たり前のようにお母さんを探すのです。そのときに、わざわざ大きな声で、お母さん、お母さんと言うのです。ベランダが見えるところなので、ベランダに見えていたらそこでわかるだろうと思うのですけれども、どうしても本人としては見つけないと気が済まない。うまく言えないのですけれども、そんなのを見ていると、自分がもし親になるのだったら、Aさんのところみたいになりたいなと思っています。

少しでもこの場で話を聞いてもらった方が、里親っていいんじゃないのと思ってくれて、年齢とか関係なしに、里親さんをやってくれるといいのかなと思います。そして、ほかに知らない人にも発信してもらえたらなと思ってます。話がまとまらないのですが、以上です。ありがとうございました。

5 里子と共に成長し続ける

【里母】

私の家族は夫と夫の母と小型犬1匹、そして3歳になったばかりの女の子、里子のAちゃんです。

私が里親を知ったのは20歳の頃。就職した先の保育園の園長先生が里親だったことでした。数年後には園長先生の娘さんも里親になり、2人の里親の生き方を見てきました。私たちは登録して初めの1年に3人のお子さんを短期間お預かりし、登録してちょうど1年経つ頃、Aちゃんを迎えることになりました。初めてAちゃんに会ったのは、生後10か月になったばかりでした。

交流が始まって間もない頃は思いっきり私を警戒している目つきでしたが、通つてみると一日、一日変化がありました。Aちゃんも自分に会いに来てくれているということがわかったようで、私が行くと笑顔で近付き、歓迎してくれるようになりました。今日も待っているかもしれない。それに応えたい。そんな思いの一心で、結局、毎日のように通っていました。

乳児院ではたくさんの愛情を注いでもらったとはいえ、Aちゃんにとっては特定の人には側にいない。早くこの子に家庭を。安心できる場をあげたい。家族になりたい。そんな思いを抱えて交流の日々を過ごしました。順調に交流を進めて、生後11か月になる頃に我が家にやってきました。

今まではお昼寝も夜も、寝る時にはいつもベッドの中。ミルクは抱っこされて飲むのではなく、自分で持って飲むそうです。一人で勝手に飲むなんて不憫で仕方ないと思いました。家に来たら抱っこしてミルクをあげよう。ところが、実際に家でやってみるとぎゃーぎゃー泣くのです。泣き方からAちゃんが何に怒っているのかがわかりました。Aちゃんにしたら、放っておいてよ、好きなように飲みたいよと言っていたようです。じゃあ、好きなように飲んでみたらと布団におろすと、にこにこしながら得意気にぐびぐびと飲んでいました。

眠ることについてはさらに大きな課題が待っていました。抱っこ、おんぶ、トントンなど…何をしても、誰がしてもダメです。同じ乳児院から来た先輩里親さんと会った時、ベッドじゃないと眠らなかったよという言葉にはっとしました。その日のうちにベビーベッドを手配しました。ベッドを組み立てるのを目の前にしたAちゃんは満面の笑みを浮かべ、手を伸ばし、体を揺らして喜んでいました。Aちゃんのいた乳児院では、一人が泣き出すと何人もが次々に泣き出してしまうので、泣いても抱っこしてもらえないことが多いそうです。私は勝手にかわいそうだ。もうそんな思いは味わわせたくない、一人じゃないよ、そばにいるから大丈夫だよ、そんな思いを込めて、私たちと布団を並べて寝かせようと思い込んでいました。端から見たら不憫でならない環境だったとはいえ、Aちゃんはそこで10か月間、一人で生きてきたのだと思い知らされました。まだ小さいから、何だかんだ言っても、慣れるのも早いだろう、そんなふうに思っていた私は、時

間をかけ、心して向き合わなくてはならないと覚悟を新たにしていました。

Aちゃんの場合、泣いた時の落ち着き方は、指しゃぶりと洋服についているタグを触ることでした。よしよし、大丈夫だよと胸に抱かれ、慰めてもらうことは必要としていませんでした。そうしようとして拒否されると、そのたびに私は必要とされていないことを思い知らされました。

また、食べることへの執着が強く、特にお菓子は食べても食べても満足しない。まるで底なしのようでした。出先で知らない赤ちゃんが食べていたビスケットを奪って食べたり、運動会では私と手をつないで歩いている時でさえ、忍者のような早業で、さっと他人のお弁当のトマトを奪い食べていたり、知らない人のお弁当を次々に狙って、レジヤースートの上を歩き回ったり。ふだんからお菓子をあげていないわけではなく、言っただけでも効き目はありませんでした。

人は自立していくためにはまず、しっかり特定の人に依存し、愛着関係を築いていくことが大切だといいます。私との関係をしっかりと築かなければ。出会った頃からそれに尽きるとさえ思っていたのに、なかなかうまくいかずに2人で迷子になっていたようです。

受容、これはあまりに大きな言葉でした。ただ目の前の子どもを受け入れる。その大切さはわかっていました。でも、Aちゃんをよく泣き、激しく怒り、大きな声で強烈にぶつける、そんなありのままを受け入れ続けられれば、自分も夫婦も家族もすべて壊してしまう。試行錯誤を繰り返し、うまくいかないたびに自己嫌悪。そんな日々を重ね、自信をなくし、自分を見失い、イライラし、負のスパイラルに陥っていました。Aちゃん自身もちろん苦しんでいたと思いますが、私が、夫が、母が、みんなとても疲れ、傷ついていたのだと思います。そんな中での救いは、いつも夫婦で話し合えたことです。時には母も交え、夜な夜なよく話をしました。夫に、母に本当によく話を聞いてもらい、励まされ、力をもらいました。この家族の支えがなかったら私はどうに投げ出していたに違いありません。

3歳になったAちゃんは大人に対しての憧れが強い、おしゃべりが達者なおしゃまさんに成長しました。最近、「ママちゃん良い子だね。」「抱っこしてあげるね。」と両手をいっぱい広げて抱きしめてくれます。先日のAちゃんの誕生日には大好きなチョコレートケーキを食べ、お祝いしました。すると夜、布団に入り言うのです。「ママちゃん、お誕生日ありがとう。嬉しかったよ。」これにはたまらず涙が出ました。ようやく我が家に笑顔と笑い声が響くことが増え、ここまでやってきてよかったなとしみじみ思います。

時よりAちゃんが言います。「Aちゃんはね、お空のお星さまだったんだけど、ママちゃんに抱っこしてもらいたいから来たんだよ。」と。今ではそんなAちゃんをいっぱい抱っこしてあげたいと思っています。

6 漢字テスト 0 点→ 100 点へ大躍進の T 君と 「家出をしてでも来る」と言ってくれた兄弟

【里母】

昨年、養育家庭に登録しました。夫と私、21歳の長男、19歳の次男、18歳の長女の 5 人家族。次男と長女は地方の学校で寮生活をしています。

私達が養育家庭を知ったのは今から10年以上前。知人が養育家庭で、男の子を育てていました。しかし、当時の私には実子ではない子を育てるなんて考えられませんでした。

そんな時、同居していた主人の母がアルツハイマー型認知症を発症。家族全員で協力し、亡くなるまで10年間、自宅で義理の母を介護したことが自信になりました。義理の仲でも、いつも一緒にいるうちに実の親のように思えてきて、血縁を超える親子関係もあると思えるようになりました。養育家庭について知るため児童相談所を訪ねました。

最初にお預かりしたのは、父子家庭の小学3年男子の T 君。お父さんが入院した 3 か月。わんぱくでいたずらっ子、さみしがり屋で甘えん坊の T 君の口癖は「めんどくせえ。」私が普段と違う行動をするとすぐ指摘する、大人の行動をよく観察し、何でもよくわかっている子でした。そんな T 君がある日、私に聞いてきました。「女ってさ、うんちするの？」私は驚きましたが、顔に出さず「するよ。生き物はみんなするのよ。」と答えました。数日後、T 君は「俺、女はおしっこしかしないと思っていたんだよ。」と真顔で言ってきました。私は環境によって知らずに育つこともあると知り驚きました。

最も苦労したのが家庭学習。T 君の漢字テストはいつも 0 点。「宿題は？」と聞くと「今日はない。」「学校でやってきた。」の返事でしたが、ある日先生からの連絡で、1 学期からほとんど宿題をやっていなかったことが判明。2 学期終了までに今までやらなかった宿題を学校と家庭でやることにしました。帰宅後、おやつを食べられるのは、宿題終了後ですが、10分で終わる量の宿題が20分も30分かかります。宿題をやる前に「めんどくせえ。」と文句を言い、泣いて嫌がります。励まし、応援し、時には叱り、と何日間も続けたある日、T 君は帰宅後、机に向かい宿題をするようになりました。0 点の漢字テストは、30点、50点になり、遂に100点！後で伺った先生の話では、以前は宿題をやらず、毎朝先生から注意され、いじけていたが、宿題をするようになってからは、朝教室に入ると、明るく大きな声で「先生、宿題やってきたよ。」と言うとのこと。先生は「T 君のその挨拶を聞いた時に心がとても気持ち良くなるんです。」と私に話してくれました。

お父さんが退院し、自宅へ戻る時「家に帰ったら宿題はどうするの？」と聞くと、T 君は「3 学期も毎日宿題をやるよ。」と言ってくれました。ある映画監督が「大事なことは大抵めんどくさい。」と言っていました。T 君はめんどくさがってやらなかった宿題の大切さを知ったのでしょう。T 君の成長を見ることができて本当に良かったです。

次に、母子家庭の小学2年と6年の兄弟を、今年の3月に1 か月だけお預かりしました。お母さんの突然の入院と、6年生の M 君の卒業時期が重なったため、学校へ通える距離にある我が家に来ました。お預かりする前のお話では、兄の M 君は問題ないが、弟の Y 君は少し多動気味で、発達障害があるとのこと。不安を感じましたが、短期という

こともあり、私たちにできることはやってみよう、とお預かりしました。

実際に預かってみると、多動で発達障害とは全く感じられませんでした。2人はとても仲が良く、私達の話も素直に聞いてくれ、我が家から学校まで子供の足で40分以上かかる道を毎日、文句も言わずに頑張っていて通っていました。

ただ一つの悩みは、食べ物の好き嫌が多いこと。特に生野菜が苦手で、なかなか食べられませんでした。それでも兄のM君は1か月間でほとんど食べられるようになりましたが、弟のY君は最後まで食べられそうもなく、私も半分諦めていました。

1か月後、お母さんが退院。家へ戻る前日の最後の夕食はハンバーグ。つけ合わせはY君の苦手なキャベツの千切り。実は1か月前の最初の夕食もハンバーグ。その時はキャベツの千切りを食べませんでした。最後の夕食でY君はキャベツを食べ始めました。私は一言も「食べなさい。」とは言わなかったのに、Y君は目を白黒させ「おえっ」と戻しそうになりながらも、きれいに食べてくれました。嫌なことがあると逃げていたY君が、ちゃんと向き合い、頑張ればできるという姿を最後に見せてくれて、私は感動しました。

翌日、2人はお母さんのもとへ帰る時「ありがとうございました。」とお礼を言ってくれました。帰り道、児童相談所の方から「これからはTさんの家に遊びに来たりしては駄目よ」と言われた2人は「家出をしてでも来る。」と言ったそうです。家出は困りますが、その話を聞いた主人は本当にうれしそうでした。里親になって幸せを感じた瞬間です。

今年8月からは、18歳までの予定で、中学2年と高校1年の兄弟をお預かりしています。思春期の里子をお預かりする際の心構えについて主人と話し合った結果、親というより、おじちゃん・おばちゃんという立場で接していこうと決めました。最初は本音も言えないでしょうから、まずは、温かい食事、温かい布団、温かいお風呂を用意して、後は生活の中でルールを決めて見守っていきたいと思います。

生活面に関する細かい口出しは逆効果になりそうなので、月一回、家族会議をしています。我が家の行事や学校行事、困っていることはないか、貯金やお金の使い方、生活面での注意点等も伝えています。主人が中心に進める話を、二人ともよく聞いており、先月も主人が「自分が食べた食器は自分で洗おう。」と提案したら、各々が食器を洗ってくれるようになりました。今後自立に向けて色々なことを学んでもらいたいです。

先日、弟のA君の担任の先生からお手紙を頂きました。「A君は2学期が始まってから、毎日穏やかに学校生活を送っています。授業中も作業や課題に積極的に取り組む姿勢が見られるようになりました。今まで学習にしっかり向き合う習慣がほとんどなかったので、なかなか数字にはつながらないと思いますが、ここで頑張ろうという気持ちになったことは大きな進歩だと思います。御家庭での御支援をこれからもよろしくお願いいたします。」という内容でした。この先生のお手紙は私にとってすごく励みになりました。私は、お預かりした里子がより良い方向に育って欲しいと思ってきましたが、気づいたら私自身が育てられていました。これからも周りの方に助けて頂きながら、今お預かりしている2人の里子がよりよく成長できるように支えていきたいと思っています。

7 「うざい」「しつこい」「わかってる」— 不登校を経験した思春期の我が家の里子

【里母】

現在、私は高校1年生の女の子をお預かりしています。

実は、私も今から12年ほど前に今日の皆さんのように体験発表を聴きました。当時、我が家では2人の息子の就職や大学受験などを控えていましたので、すぐに里親ということとは考えられませんでした。

その後、何度か家族で話し合い、平成16年9月に児童相談所に申請をいたしました。認定登録を経て、平成17年3月に今お預かりしている女の子のお話をいただきました。

小学校1年生になる直前の時期でした。乳児院と養護施設で育ってきた子なので、徐々に慣れされていくために交流期間を普通より長い1年間持ちました。我が家に来たのは小学校2年生になる時でした。今年で交流期間を含めて10年目になります。

最初の出会いのこの子の印象は、「男の子のような女の子」というものでした。活発で大ざっぱ。よく言えば、おおらか。男まさりの、丁寧さのない性格でした。今は高校1年生の乙女ですので、化粧やらおしゃれに目覚め、こそこそとやっているようです。変わらないのが、少々のことには動じない開き直り、片づけが下手、忘れ物が得意。勉強なんか大嫌いというところも全然変わりません。

施設から家庭に来たことで子供たちにとって一番の違いは、自分だけを見てくれる大人とのかかわりが持てることだと思います。それがまた本人にとって「うざく」なってくるのですが、親ってこんなに心配してくれる存在なんだ、というのは感じてもらえたかと思います。

これまでの9年間では、年齢に応じた言葉でわかるように一つ一つ話してきたつもりなのですが、なかなか真意が伝わらず、「うざい。」とか「古いのよ。」「本当の親じゃないくせに。」、最後は「どうせ私は捨てられたんだから。」という言葉も時には出ました。今もいろいろ言ってくるのですけれども、本音を出してくれるところがいいかなとも思っております。

当時うちに来たころに、びっくりしたことは、いろいろな経験や体験が少なかったということでした。銀行、郵便局、スーパーでの買い物、お使いなどほとんど知らず、バスに乗ってブザーを押すことも知りませんでした。一番びっくりしたのは、大人とお風呂に入ったことがなかった、ということです。乳児院や施設でも、お風呂には入っておりましたけれども、1人で入ったり、多分、年長の子と入ったりということのみで、大人とお風呂に入ったことがなかった、ということでした。

施設でできなかったことを経験させなければと思い、最初の1年間はあらゆる行事に参加して、地域を中心にいろいろなところへ連れていきました。次の年からは、経験したことを、自分でこれにまた参加したいとか、これはもう行かないなどと選ばせるようにしました。地域の地理も覚え、行動範囲も広がっていきました。

運動神経がいい子だったので、一輪車に乗ったり、水泳に通っておりました。4年生

の終わりに自らバレーボールをしたいと言い出しましたので、地元のバレーボールチームに入りました。監督には反抗的な態度をとって外されたりしましたが、運動神経がよかったものですから、小学校卒業まではエースで頑張りました。

そのバレーを生かして、中学校の部活に入ったのですが、1年生の夏休みの途中からだんだん行かなくなり、そのまましばらく行かないことが続いて、退部という形をとりました。

その後、今度は学校に行かなくなりまして、だんだん不登校になっていきました。朝、何度か声をかけますと、「うざい。」「しつこい。」「わかっている。」の三言でした。それでも不思議なことに、学校行事や試験には必ず行っておりまして。授業に出ていないので、試験もそんなに点はとれないのですけれども、多分、試験は受けておいたほうが良いと思ったのかも知れません。普段学校には行っていないので、恥ずかしくないのか、とも思いましたが、学校行事と試験には、行っておりまして。

そのうちに、教室には入らないけれども、図書室通いになり、3年生になって高校受験の雰囲気が高まってきたころに教室に行くようになりました。勉強も相当遅れてしまっていたので、3年生の夏休みからは塾へ通いました。塾の先生には事情をお話し、週に4日通い、何とか高校に入学できるように指導願いました。出席日数が足りないため、推薦はいただけませんでしたが、一般入試で私立高校に入学することができました。

そのときには「ありがとう。」と言って泣いて喜んだのですが、今はまた、時おり欠席することもあり、心配な毎日です。そのときに今度は、「私は行きたくなかったんだ。お母さんが行けて言ったから行っているんだ。」ということも言いますし、次から次へといろいろなことが起こり、心配事も年齢とともに大きくなってきています。

反抗期、思春期、それに加えて自分の生い立ちや、もやもやなどがあると察しますが、乗り越えていってほしい、と願っています。

だんだん秘密も多くなり、本音も言わない年齢ですが、社会に出たときに自立して生きていけるようにいろいろ身につける手助けができればと思っていますが、またきっと「うざい。」と言われるのかと思います。

縁があって出会ったのだから、と思っていますが、高校に行かない限りは我が家にいることもできなくなってしまいますので、高校だけは本当に出てほしいと願っています。

この先もいろいろな問題が生じるとはと思いますが、児童相談所の方や心強い里親さん仲間と相談しながらやっていきたいと思っています。

いつでも児童相談所に相談に乗っていただけるので、1人でも多くの方が安心して養育家庭を受けていただけると大変うれしいです。ありがとうございました。



8 ありのままで…

【里母】

本日は、4年と9か月ほど前に家族に加わった小学4年生の女の子との今日までの生活をお話ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

今から10年ほど前のことです。毎日のようにテレビでは幼児虐待、ネグレクトでの保護などの悲しい報道が流れていたのです。実子は、ぜいたくはできないものの、当たり前のように日々3度の食事をとり大きくなりました。私に叱られ、お互い嫌な時間を過ごすこともたくさんありましたけれども、生活に不安を持ったことはないと思います。同じ国に生まれているのに、環境の違いでどうしてもこんなにも差があるのでしょうか。単なる自分の好き嫌いでわがままを訴える子、逆に、食べ物を与えてもらえず、わけもわからず暴力を受け、助けを求めるすべも知らず、この世を去っていく子、あまりにもひどい話です。一人でも家族の温かさを感じて欲しくて、主人に子供を家庭に迎えたいと相談しました。主人は二つ返事でした。一緒に住んでいる同居の息子は、「来る子は拒まず」でした。

たまたまパート帰りに自宅近くの保育補助の求人貼り紙を見つけて、これから子供を迎えるにあたっていい勉強になるのではと転職しました。もともと幼児を扱う仕事に復帰したいと考えていたので、グッドタイミングでした。

あるとき広報紙で里親のことを知り、認定前研修の申し込みをしました。夫婦で受ける研修は初めてで、これから二人で第二の子育てをするのだという実感が湧いてきました。すぐにでも里親になれると思っていましたが、なかなか。後から研修を受けられた方が先に里子さんを迎えられたと耳にすると、ちょっと焦りを感じたりもしました。

でも、話は突然やってきたのです。何度かの交流を重ねて我が家へやって来た子は、もうすぐ6歳を迎えようとする女の子でした。彼女には、見知らぬ土地の初めての家、何もかも初めての中での生活がスタートしました。「これからお世話になります、私のこと、(仮名ですが)ようちゃんと呼んでください。」今まで生活していた園で教えていただいたのか、自分で考えたのか、不安でいっぱいのはずなのに、体全部で現実を受け止め、大きな声ではっきりと御挨拶したようちゃんの姿は今でも忘れられません。

初めは1年間の預かりの予定だったので、あれもこれも一遍に教え込もうとし、お互い酸欠状態になってしまったこともありました。今考えると無茶なことをしたと思います。自分自身とても苦しかったです。ようちゃんは生活習慣ができていなかったのも、なおさら大変だったと思います。

毎日近くの児童館に行きながら幼稚園選び。いろいろ考え、徒歩で行ける幼稚園3園の中から、アットホームな幼稚園にお願いすることにしました。そして、幼稚園の往復は、寄り道、回り道と会話を大事にしました。自転車だと5分、徒歩だと15分ぐらいです。わずか10分の時間差で、五感をしっかり使い、道で出会う人々と挨拶をし、子供にとって大事なことを継続して経験させてあげることが心掛けました。

また、自分の考えはしっかり相手に伝えることができるようにと、何回も回転寿司屋に行きました。多分ようちゃんは食事のためだけだと思っていたと思います。「〇〇のサビ抜き下さい。」をはっきり言わないと、職人さんには聞こえず、サビ抜きが食べられないのです。初めは口の中でもごもご言っていたのに、一度大きな声で言え、欲しい握りを食べることができたら、自信とおもしろさでどんどん言えるようになりました。うれしい反面、一皿500円の握りを頼まれると、私の財布はハラハラドキドキでした。もちろん高額は2皿でストップ。その結果として、今では授業での発表、グループでの意見交換などで自分の考えをはっきり皆に伝えることができるようになりました。

さて、約束の1年が来ましたが、そのまま我が家で生活することになりました。それからが大忙しでした。まさか我が家から小学校に通うなんて考えていなかったのも、小学校の説明会も行ってなく、各小学校の就学前健診もほぼ終わりに近づいていて、遠い全く通学するはずのない小学校で健診を受けました。当時はバタバタしましたが、懐かしい思い出となりました。

改めて、現在小学校4年生、電車で私の足に手を回して踏ん張っていた子供が、私と10センチ弱の身長差まで成長しました。また、手芸、料理が大好きで、今は実父にプレゼントしたいと指編みで毛糸のマフラーに挑戦しています。活発で、とても心の優しい女の子に育ってくれています。主人の母は遠くに住んでいますが、実孫が成長し、子供と接する機会がなくなった母まで数歳元気になったのは、ようちゃんのおかげ。私たち里親が一方的に世話をし、愛情を与えているのではなく、里子ちゃんからもたくさんのエネルギーをもらっているのです。

実子を育てるのと、育児が途中からの里子ちゃんを育てるのとでは、育て方が少し異なります。我が家へ来るまでの空白が分からないのです。事前に聞いていた赤ちゃん返り、試し行動はありました。ひどかったのか、そうでもなかったのかはよくわかりません。わかったのは、愛されたい、自分を見てほしい、そして一番は、家族として生活したい、です。

時々、私にねぎらいのお手紙をくれます。「洗濯してくれてありがとう。」「おいしい御飯を作ってくれてありがとう。」「ママ大好き。」などです。当たり前のことをしているだけですが、感謝を伝えてくれると、私もこの年でもうれしいものです。いろいろなところで褒めて育てましょうと耳にし、そうだと私も実行しています。私もうれしいのだから、子供はなおさら。だけれども、残念なことに、〇〇もおだてりや木に登る、です。毎日たこ揚げの糸のように、緩めたり引いたりしながら子育てしています。

3年生までは、遊びが主で、毎日夕方暗くなるまで遊んでいましたが、4年生になるとそういうわけにもいかず、曜日によっては時間に追われて生活しています。もう10歳に成長したので、日々の生活の中で機会があると、権利と義務の話をしてはいますが、分かっているのだから、分かっているのだから。何となくぼやっとでも頭の隅っこに引っかかってくれたら良しの現在です。

9 名前のこと、生い立ちのこと

【里父】

平成14年に登録した里親です。私は14年前に養育家庭制度を知った1人ですが、今回のこの体験発表を通じまして、制度の理解がなお進むことを願っております。

うちは夫婦と妻の母、専門学校生、中学3年の娘2人、預って9年半になる中学2年里子Sちゃん、小学校3年の里子Mちゃんの7人家族です。モテていいですねと言われますが、お父さんの後は汚いから嫌だなどと言われ始めているところでもあります。

今から14年前に出版物の記事で初めて養育家庭という名前、また制度を知りました。私は一刻も早く登録だけでもと思いましたが次女が生まれてすぐだったため、妻から、せめてこの子が3歳になるまで待つてほしいと言われ、2人の娘の世話を積極的にして、委託後も妻1人に重荷を背負わせないというアピールをしました。そして次女が3歳になったときに再度、もう本当にやっと、了承をとりつけたという感じです。妻は一人娘で3人家族。私は7人兄弟。親戚、両親など最大11人ぐらいの家族からの入り婿でした。子育て、家族という価値観におのずと妻と私はずれがありました。

さて、平成16年夏。当時3歳のSちゃんのお話があった時、妻には想像以上の葛藤がありました。家族そろっての面会初日、妻は口数が減り、うつむきがちになりました。児相、乳児院の関係者の方々は口々に「すっかり打ち解けて、やっぱり子供は子供同士ですね。」「今後の日程を。」と言われたとき、妻は泣き出してしまいました。一堂、沈黙が続きました。私は「今回のことを含めて、全て私のほうが強引に事を進めてきました。2人の娘がかわいくて仕方のない妻にとって、里子を平等に愛せるか、2人の娘にさみしい思いをさせないかずっと悩んでいたのだと思います。」と、妻の胸の内を代弁しました。今日は帰って考え直そうと思いましたが、養育家庭専門員のIさんが「奥さんの今の気持ち、よく理解できます。ただ、この施設しか知らないあの子にとって、ご家族と触れ合っているだけで今後の人生にどれだけプラスになるかわかりません。もし委託になっても、最初は2人の実子さんに気を配って、あの子のいないときぎゅっと抱き締めてあげてください。小さいながら我慢していることをうんとほめてあげてください。」と。妻も泣きやみ、時々うなずいていました。本当に貴重な一言でした。7か月後、Sちゃんは3歳11か月で我が家に来ました。日常生活の細かなことはお話をすれば、本当にきりがありません。子供の試し行動が大変だろうとよく皆さんに言われますが、私は今考えると、お子さんからすれば当たり前のことだと思います。4年近く住みなれた所から移らされて、早く施設に帰りたい、いつも世話をしてくれた大好きな先生がいない。いろいろありましたが、その都度、妻と話し合って、彼女の生い立ちを想像していく中に、家庭の中では時間が多くのことを解決してくれたのだと思っています。

それとは別に、名字をどうするかという対外的な問題にも直面しました。Sちゃんの場合は、本名で幼稚園、小学校に入学しました。1年生の3学期に、〇〇様方と書いていない年賀状が戻って行って、2年生の実子と「名字が違うのはどうしてなんだ」と聞

く同級生が現れました。すぐ児童相談所に来てもらい、本人の意向を確かめた上で、対外的には里親の名字を名乗ろうねということにしました。ちなみに、小学校の卒業証書は2枚あり、式のあと職員室で本名の卒業証書をいただきました。

6年半前に2歳3か月で来たMちゃんは、うちに来てからしゃべり始めて、赤ちゃんのときどうだった？泣いた？などと聞いて、我々のことを実の両親と信じているような様子でした。その割に、自分のMから始まる名字にはこだわりを持っていました。ちょっと不思議なのですが。年中から保育園に入り、元気にお友達もたくさんできました。年長の夏ごろから何気ない会話のときに、1年生になるときに名字をみんなと同じにしようよとMちゃんに問いかけました。でも、彼女はMのまがいいと言って譲らないのです。私たちは、Sちゃんと同じように近い将来、本人が悲しい思いをするのではと心配をしておりました。しかし同時に、名字についていろいろ言うと、出生の真実に触れてしまうのではないかという不安がありました。で、児童相談所の心理司さんに相談しました。心理司さんは、より幼い早い時期に真実を知ることのほうが、よい場合があると言うのです。名字を変えていこうよという提案に対して、彼女のいろいろな疑問を包み隠さず、わかりやすい言葉で本当のことを答えても構いませんと。私たちは、実親の存在を知ったら帰りたいとなるのではと尋ねました。すると、子供にとって今、愛されていると実感し、居心地がいいのであればそうはならないと教えていただきました。本当かなと思いながらですけど、その晩早速、「ねえMちゃん、小学校に入るときに〇〇の名字になろうね。Sちゃんも2年生に上がる前にそうしたんだよ。うちの家族はみんな〇〇になるんだよ。ばあばもじいじと結婚する前は〇〇じゃなかったんだよ。」などと、いろいろな人の名前を持ち出して必死です。Mちゃんはしばらく考えてから「〇〇になるの？じゃあ、下のお名前は誰がつけたの？」と聞いてきました。「産んでくれたママなのよ。」と答えた妻の目から涙がこぼれました。その後、数日、Mちゃんが妻にことさらベタベタしましたが、すぐ普通に返ってくれました。

自分たちだけで解決できない問題に直面したときには、児童相談所の専門のスタッフの方々からアドバイスをいただくことの大切さを学んだわけであります。ただ、4年前はそれでわかったと思ったのですけれども、今また、体がやっぱりそれを認めたくないというか、テレビで赤ちゃんの話題があると「Mは生まれたときこうだった？ああだった？」と聞きます。名前は産んでくれたママがつけたんだよと話しましたが、この問題についてはこれからまたきっと、思春期になるまで続くのではないかと考えております。

私は、この養育家庭になって本当に良かったと思います。気づかずにいた自分の欠点や心の狭さが本当によくわかりました。4人の子供同士のトラブルを真正面から受けとめて解決していくことで、より心が練られて、強くなった気がいたします。実の娘も、「Sちゃん、Mちゃんはうちに来て本当によかったよね。」と言います。特別なことは何一つできない私たちですが、今後とも、彼女たちのありのままを受け入れて、生い立ちを含めた彼女たちの身になって理解する努力をしていきたいと思っております。

10 里子と一緒に成長中！

【里母】

4歳だったMを我が家に迎えて4年目になります。里親登録をして程なく、児童相談所から「Mという女の子と会ってみませんか。」とお話がありました。

Mとの顔合わせの日。書類や写真では分かり得なかったものを肌で感じました。初めての交流の日、Mは腹筋運動や背筋運動、片足ケンケンなど、自分に出来ることを次々と見せました。褒めると嬉しそうに笑いました。認めてほしいという気持ちがあったようです。2回目は、バスに乗って大きな公園で、乗り物に乗ったり、動物と触れ合って楽しく過ごしました。3回目、施設に着くとMは旅行の時の私達へのお土産を持って固まっていました。歩き出したものの、バス停に着く前に止まってしまい、断固として動きません。「嫌だ、帰る。」と繰り返すMは前回までと別人のよう。1時間粘って諦めて戻りました。Mは泣き出してしまいましたが、離れた場所で私達の様子を時々伺っていました。どうやら私達を特別な人間と認識して、防衛を始めたようでした。それから毎回固まり泣き出すM。他の子供と遊んでいると物陰から、気がついてというサインを見せてきます。仲間に入って1時間、やっとお出かけが出来ました。遊びに夢中な時は楽しそうなのに車で好きな音楽をかけると、「消して。」消すと、「かけて。」私が歌うと、「歌わないで。」手で振付をすれば、「踊らないで。」暑いと、「暑いから帰る。」という様で、手も繋がせてもらえませんでした。

交流を始めて1か月程経ち、1泊のお泊りをしました。出発したものの、手足をばたつかせて大声で「帰る。」と言い、泣きながら「大嫌い。」と言い続けていました。Mは今のまま大好きなお友達や先生方と暮らしたほうが幸せなのでは、と思ったこともあります。何でMを里子に迎えたいのだろう、私は思いつくまま紙に書きました。夫も気持ちを書き、冷蔵庫に貼ったその紙は、日が経つにつれて一杯になりました。年末年始に4日間のお泊りがあり、その後も交流場所を自宅にすると、Mはみるみる変わっていききました。それまでは、行った場所が楽しかっただけで終わってしまい、家庭に馴染むことが出来なかったのだと思います。

私達と一緒に暮らしていくことを話した時には、いつになく真面目な顔で話を聞き、「分かった。」と言ってくれました。交流中に私達を試し、納得して家に来てくれたのだと思います。家に4歳の子供が急に増えたので、両隣の方に事情を説明しました。予めお話しした上でMと挨拶に行きました。快く迎えて下さり、今もとても可愛がって下さっています。毎日一緒に生活することで家族になっていきました。しかし、それは一筋縄ではいきませんでした。4歳の子がせっせと、叱られそうなことを見つけてはやってみるのです。例えば、土足禁止のところに「上がっていい？」と聞き、「駄目。」と言った途端に上がります。着たいという服を、「季節に合わないから駄目だよ。」と言うと、大声で泣いて泣きやみません。私は行き詰まり、生活全般に余裕がなくなり、夫と言い合いになることもありました。そんな中、Mは近所の人、幼稚園の先生など、私

達以外の全ての人に褒められる行動をし、人一倍アピールをします。Mも大変だったと思います。今はそう思えますが、その渦中では平常心との戦いでした。体験発表集を読み、愛着に関する本を探して読みました。自分の中にこんなにも感情があったのかと驚きました。愛しいという気持ち、腹立ち、やるせなさ、嫉妬、中でも嫉妬です。交流中は常に「おじちゃんの隣、おばちゃんはおっち。」子供用の乗り物に乗るときは、「おじちゃんと乗る、おばちゃんは乗らないで。」委託後も私を試すように続けました。私は思いが爆発して、「そういう言葉や行動がママを傷つけている。」と怒りましたが、やめませんでした。

隣の家のおばさんにも懐き、遊びに行きたがりしました。近所の方に可愛がっていただくのは嬉しいし、私も気分転換できるので助かりますが、帰るのを嫌がる日にはおっちの方がいいのかなと考えてしまいました。Mは、実親から乳児院、児童養護施設へと環境を変えることを余儀なくされて来ました。我が家に来て1年も経たない頃、うちも隣の家も同じように思っても仕方のないことです。こちらはキープしたから、隣の家にアピールしておこうと思う気持ちもあったのかもしれませんが。それでもその時の私は、妬んだり、どうしてこんなにMを思っているのに、隣のおばちゃんと同じ位にしか思ってくれないのだろうと情けない気持ちになりました。

Mは、私達を試すような行動を繰り返すごとに少しずつ、家族と家族以外、よそのママと自分のママの違いを自分で確認していきました。2年位かかりました。今でもよその大人は大好きですが、自分の家族や自分の家が何よりも大切な居場所だと分かっています。私達夫婦がいつか死んでしまうことを何よりも恐れていて、話の中で、「その時はママはおばあちゃんになっているから。」と言うと、「言わないで。」と怒ります。テレビで悲しいお別れの場面を見ると大泣きして、「私達とお別れしたくない。」と言います。そんな時は「お別れしないから大丈夫だよ。」と抱きしめます。

最近は小学校2年生にして、もう反抗期？と思うような態度をとることがあります。感情をどうにもできず、持て余しているのだろうなと頭では理解していますが、私も生身の人間なので、頭に来ることもあります。あまり頭に来ると、子育てを仕事として捉えなければいけないなと改めて思うきっかけになります。自分とは別の人格を持った一人の人間を自立させるまでの仕事だと。今までの心配事を振り返ると、何であんなにそんなことを気にしていたのだろうと思います。余裕が無いために夫と言いかうことも無くなりました。夫婦でお互いを理解して、Mにとって何が一番良いか話し合っています。これからもまた沢山の心配事が出て来ると思います。その時は夫婦で話し合い、里親仲間に話を聞いてもらったり、児童相談所に相談しながら、Mと乗り越えていきます。今日は苦労話が多くなってしまいましたが、Mと出会ってからの日々は、私が生きて来ただ中で一番幸せを感じた時間です。これからもMと過ごしていく日々や、Mの成長が何よりも楽しみです。

11 いろんな人に支えられて

【元里子】

皆さんが怖い顔をしてしまうと、僕も緊張してしまって話せなくなりますので、よろしくお願いします。

僕は、中学2年生のクリスマスのときに里親のもとと一緒に生活し始めました。里親と生活を始めた経緯としては、その夏、夏休みに入る前に親が病気になりまして、僕のことをもう育てることができなくなったということで、そのまま児童養護施設に数か月間入りまして、その間に父さんの知人の方が里親になってくれました。それで一緒に生活を始めるようになりました。

僕が入っていた施設は寮みたいな感じのところで、数百人ぐらい、さまざまな事情を抱えた子供たちが入っていました。当時、環境も変わったこともあって勉強もやらなくなってしまいまして、学校に行っても寝ているだけで部活動だけ頑張るみたいな堕落した生活に陥っていました。

里親のもとで生活を始めたころは、いろいろと生活、家庭のリズムに戸惑いもあったのですけれども、少しずつ慣れていきました。特に御飯がおいしくて、いろいろおかずもあって、親と一緒に生活していたら食べられなかったようなものも食べられて、食べ物の好き嫌いもあったのですけれども、それも一生懸命考えてくれて、食べやすいように作ってくれました。元々刺身とかそういうのは大嫌いだったのですけれども、里親さんがおいしい刺身を出してくれて、そこから好きになり始めて、今はもう大好物になっています。部屋も自分の部屋を用意してくれて、勉強のほうも一緒に夜遅くまでやってくれたりして一から全部一緒にやり直してくれました。

その他、いろいろな体験もできました。元々僕は海が大嫌いだったのですけれども、里親のほうで、「海は楽しいんだよ。」ということで海の遊びをいろいろ教えてくれたりとかして、今はもう毎年夏になると海で遊んだりしています。里親さんの身内の結婚式とかに呼んでくれて、一緒に経験したりとか、また、富士山に行ったことがなかったのですけれども、登山したりとか、スキーとかにも一緒に行ったりということで、親と一緒にいたら経験できなかったようなこともいっぱい経験ができました。

その一方で、里親も僕の家庭の事情を深く知っていたので、ひとり立ちさせようと思っていて厳しいところもありました。主に勉強のほうで、あと私生活の面ですね。あと進路のことになるとかなり厳しくなって、それをきっかけに里親とけんかしたりすることもありました。

最初は私生活のところでけんかすることが多かったです。やはりけんかをする、何で怒られているのか最初はわからないのです。自分で一生懸命考えても、やはり里親の怒っていることと自分が考えていることが違うということで、だんだん大きくなって、「俺はもう帰るんだ。」とか変なことを言っていました。そういうときには必ず里親の家族が仲裁してくれたり、あとは里親とお付き合いしている近所の方とか、学校の先生

とかが仲裁に入ってくれて乗り切るといった感じだったのです。結局、その方々がいなかったら、僕はもしかしたら、もう里親のところから離れて、今の生活もなかったのかな、もっとつらい生活をしていたのかなという感じですね。

一番悩んだのは、高校を卒業した後はどうするかというところで、就職のほうを選んだのですけれども、選んだ理由としては、やはり大学に行くと学費がかかるのですね。あと、大学に行っても本当に就職できるかといったらわからなかったもので、それだったらちゃんと就職したほうがいいかなと思いつつ、やっていました。

現在、Y市役所のほうで仕事をしているのですけれども、いつかはこの里親制度に関われるような仕事をやりたいなと思っています。

今も里親との交流はありまして、大体月に数回とか、最近はちょっと顔を出していないのですけれども、必ず帰るとおいしい御飯を作ってくれたりとか、これを持って帰っていいよという形でいろいろ持たせてくれたりとか、本当に家族のように温かくしてくれます。

里親との生活を通して感じたことは、支えてくれたのは里親だけではないのですね。近所の方とか、学校の先生とか、友達とかに、精神的な面で相談したりして、結果、今の自分もあるのかなというところで本当に支えられたなというのを感じています。ぜひ皆さんに、これから里親になったりするときや里子を迎えるときとかは、まずは近所のほうからもう一度見つめ直して行って、本人にもそういった1人で抱え込む環境をつくらないということを意識して、ぜひやっていただきたいと思います。

そして、この里親制度なのですからけれども、やはり海外と比べると、日本はまだ集団で生活する先ほどあった児童養護施設のほうが多いです。海外では家庭的養護のほうが主流なのです。僕は本当に里親と一緒に生活させてもらって、自分の将来の歩く道をいろいろ広げてくれたなというのはすごく感じました。なので、本当に迎え入れるとしたら、その里子の将来、視野を広げられるような形で、いろいろな道を進めるように、ぜひ一緒に考えてあげてほしいなと思います。

あとは本当に施設に入る人、一部は本人の責任があるかもしれないけれども、ほとんどの人は自分の責任ではないのです。お金もあるわけではないし、親によってそのように決められてしまったことによって彼らの人生が奪われるということは、これは本当に避けてあげるべきことだと思いますので、逆に助けてあげることによって、これから彼らが将来大きくなったときに、もっとほかの人に還元したり、日本の社会に大きな貢献をしていくと思いますので、よろしくお願いします。

僕の発表はこれで終わります。ありがとうございました。



12 独りぼっちにしない、ということ

【里父】

私が初めて体験発表会に参加したのは5年ぐらい前、偶然知り合ったベテランの里親さん夫婦が体験発表会で話されるということで参加しました。実は、そのうちの高校受験間近の子供に勉強を教えてほしいと頼まれて、引き受けたことがきっかけで、週2、3回その里親さんの家に行って、里親さんと里子さんの話や子ども同士の話聞いていました。今思えば、それがその後里親をやるということにつながっていたかな、と思います。その時はその里母さんが里子さんの合格発表の日に、子供以上に涙をボロボロ流して喜んでいらっしまったのがとても印象的でした。

ちょうど5年ぐらい前に里親の登録が終わって、しばらくして児童相談所から電話があり、紹介を受けた子供を都内の乳児院に見に行くことになりました。

今預かっているお姉ちゃんが当時4歳で、弟が2歳でした。そこから週に1、2回乳児院に通って、いろいろなことに気づきました。お姉ちゃんの方は、その乳児院の中では年齢が高かったのもうすぐ児童養護施設に移動する時期だったのかなと思います。その当時でもたくさん言葉を知っていたので、トイレの場所とか、いろいろ教えてくれたことは今でも思い出します。乳児院は毎月のように新しい子が入ってきて、自分より年下の子と遊ぶことに慣れていて、案外大人っぽい行動やしぐさをしていたように思います。それから職員によって彼女の態度や接し方が違うな、と感じていました。大人になると人によって態度を変えろというのはやっていると思うのですが、4歳ぐらいの子供は別に必要ないのではないかな、と思ったのもその頃でした。乳児院というのは毎日職員の方も交代ですし、新しい子が入り出るので、案外落ちつかないかなと思いました。誰の親が面会しに来たのか、自分の親も来てくれないかな、と想像しているような子どもの視線を感じたりして、印象に残っています。

なぜ里親を夫婦でやろうと思ったかという話ですが、結婚後しばらくしたときに私は「子供がいないのなら、血のつながらない子がいて育てるのもありだね。」と口にしたそうです。私は実はそんなことを言った記憶が全くないのですが。元々妻はクリスチャンホームで育っている外国の宣教師が里親になったり、養子に入れたりできることを知っていて、育った環境の中で、妻はそういう感覚とか素養を持っていたのかもしれません。

子供の話になりますが、当時乳児院からはボランティアの人のように全ての子供と接してください、と伝えられて、姉と弟の2人以外の子供とも遊ぶことも多かったのですが、私になついてくれる女の子がいる一方で、一番なついて欲しい今のうちの姉の方が、全くなついてくれず、むしろ意識しているので避けられているのかなという感じはありました。時間が解決してくれるのかなと当時は思っていました。今はお姉ちゃんも手はつないでくれるし、体重は20キロ超えています、今でもおんぶと抱っこをせがまれたりして、関係は悪くないのかなと思います。その当時は、成人男子自体に警戒心を持っ

ていたように私は見えました。

乳児院に5か月ぐらい通って、2010年8月に乳児院から自分の家にお姉ちゃん、時間差をつけて、4か月後に弟を連れて帰りました。お姉ちゃんを連れて帰る日がとても苦勞して、ものすごく長い一日だった記憶があります。それはお姉ちゃんが完全に嫌がりぐずって、乳児院の近くでバスに乗るまでに4時間ぐらいかかり、その頃は完全に私は避けられていたので多分嫌がると思って、妻とお姉ちゃんが2人で先に電車に乗り、私は後から尾行するように隣の車両に乗り、帰ったという思い出があります。来てからも、ちゃんとトイレができていたのが急にできなくなるとか、乳児院のときは好き嫌いなく食べていたのが急にこれは食べたくないとか、すごく好きなものばかり食べるということも起こりました。弟は2歳でしたのでまだ言葉がうまくしゃべれませんでした。弟は姉からあの人はママではないからねというレクチャーを受けていたようで、2人とも私たちが親でないのは分かっている、と早々に分かって、それを前提にいろいろ夫婦で考えながらやってきて今に至ります。弟が2歳の頃に「ママは僕の大好きな友達だ。」と言ったのです。その言葉にやはり妻はちょっとだけ葛藤を感じたと後々言っていました。あまり無理せずにそのままの感覚で暮らしていくのがいいのかもしれないなと思ったそうです。

里親は身近にたくさんモデルがいるわけではないのですが、他の人の経験や体験を聞いて気づいたり、学んだりすることも大事だと思います。里親自体は人数が少ないので、里親同士のネットワークで定期的に情報交換することも大事だと思いますし、そうしないと困るときが出てくるなという印象は持っています。

里親をやっていると、協力してくれる人が増えていくことがとても嬉しく感じられます。端から見ると普通の子育てに見えても、小さいことに結構悩みながらやっています。私たちはオープンに「自分は里親をやっています。」ということをはかっています。幼稚園の先生、小学校の先生、近所のおばちゃん、お医者さん、私たちの両親とか友達とかが、積極的に協力してくれなくても、自分たちがやっていることを知っていて理解してくれて、たまに心配して声をかけてくれるだけで大分過ごしやすいことも多いと思います。子供も同じで、周りに無関心でいられることは多分つらいことだと思うので、社会的養護というと何か難しい感じになってしまっていますが、要は、子供を独りぼっちにしない、ぽつんとさせないということが大事だと思ってやっています。子供が子供なりに、協力してくれる人を探しているのであれば、その時々でその場限りの協力者を見つけるのではなく、特定の大人に頼って、できるだけ長く見守られた方が、毎日の気持ちも落ちつくのかなと思いました。

私たちは養育家庭を始めてまだ4、5年しか経っていませんが、子供と一緒に暮らしてみても、そこから始まる未来が彼らにとって良いものになればと思っていますし、協力してくれる人や理解してくれる人が増えて欲しいな、という気持ちです。

13 私が思ういろいろなコト

【元里子】

現在26歳で、今は埼玉県に住んでいます。小中高大と行かせていただき、社会人として3年間働き、今年3月末で退社して、今は転職中のような状況です。

私は、生まれてからすぐに乳児院に預けられました。そこで2年半生活をして、今の里親家庭に入りました。かなりやんちゃな子供だったと聞いています。里親候補の方が乳児院に来たときに、みんなを押しつけて突っ走っていったり、養育家庭に入ってから、走り回って転んだり、特に両膝のあざはなかなか絶えなかったなという状況でした。

実親との関係なのですが、パスポートをとるときに戸籍謄本が必要になると思うのですが、そこで初めて実親の名前、兄弟などを知ったような状況なので、ほとんど実親との関係もなく、情報を知りたいといったようなことはなかったです。

よく出てくるのが名前の問題ですね。高校を卒業するまでは里親の名字を使っていました。事前に里親のほうから、先生だとか周りの人に、「実はうちはこの状況なので御協力してくださいね」みたいな話をしていたおかげで、特に問題なく過ごせました。高校を卒業するまで18年間使ってきた名字だったので、とても愛着もありましたし、通称名の名前が本当の名前だと思うような生活ができました。

何で本名に変わったかという、大学入学のときに、大学側から、本名を使ってください、そうでないと入学届を受理できませんと言われ、18～19歳から今の名字を使って8年ぐらい経っているのですが、本当に自分の名前なのかなという思いは今もあります。

子供のころはとてもやんちゃだったので、小学校のときは5～6人連れ歩いて結構いじめをしていたりだとか、校舎の裏に呼ばれて決闘したりだとか、今からはあまり想像できないような悪戯鬼でした。小さいころは勉強もできたので結構目立っていました。

中学に上がって、中2の頃に逆に今度は自分がいじめを受けるような経験があって、トイレに連れ込まれて殴られたりだとか、無視されたりだとか、いじめの経験もありました。なかなか子供の間ではいじめの問題を解決することは難しくて、家に帰って泣きながら里親に、自分はいじめられていて、もう我慢できないよと話をしたところ、学校に話をして、何とかいじめを解決するように運んでもらうこともできました。そういうことがあったから、今も実家というか、里親の家庭にいますし、実の両親だと思っていますし、そういう想いにつながってきたのかなとは、今振り返ると感じています。

高校時代はテニスをやり、バンドをやり、勉強はあまりやっていなかったですね。卒業をする段階が18歳で、いわゆる措置解除。そのタイミングで職員の方が来られ面談がありました。これからどうするの、進路はどうするの、大学に行くのかな、貯金は幾らぐらいあるのみたいなことを聞かれて、ただ、あまりにも里親家庭の中で普通の子供として生活をしていたので、まず、「なんだコレ？」、と思いました。大学に行くことは決まっていたので、大学の費用も里親が負担してくれました。ありがたいという感謝の気持ちと、親だからねという気持ちも多少あり、普通に暮らしていた私からすると、

職員の方が来られること自体がまず不思議だという感覚がありました。

今の社会状況を見ると、18歳でいきなり自立というのは難しいと思います。何とか自分の進路ぐらいは決められたとしても、そのためにどうやってお金やアパートを用意しようかと考えたときに、里子であってなくても、18歳でスタートできないですね。

里親さんになることをお考えの方もいらっしゃると思います。短期でも構いませんが、できれば長い間、里子を見ていただけると非常にありがたいと思います。家族になるのには時間がかかりますし、18歳措置解除後のアフターケアがあると、その後の生活で、里親がまだいると心の拠り所になりますし、自分の活力になるので、差し出がましいですが、できればそういったところもお願いしたいとは思っております。

欧米などは結構、里親家庭に入る件数とかが数字的に見ると日本よりいいと聞いています。だからといって日本が世界から見て遅れているわけではありません。どちらかというと日本のほうが、預かった里子を長期的にケアしてくれる、そういった忍耐力のある里親さんが実は多いから数字が少ないというのとも言えると思うのです。私の場合はラッキーに自分の居場所を設けてくださる機会があり、里親さんが忍耐していろいろ頑張っていたいたおかげで自分の居場所をつくることができましたと思います。

では、その自分の居場所、家族とは何なのだろうと考えました。今、家族と言っても種類が多くて、核家族、シングルマザー、シングルファーザー、DINKS、3世帯家族とかもありますよね。普通の家族の形態とは何なのだろうと考えると、多分これは正解がないと思います。普通の家庭にも親と子の確執だとか家族関係、親子関係で悩みを持っている方はたくさんいらっしゃると思います。そんなに里親、里子という肩書に左右されなくてもいいのかなと。逆に、うちは里親家庭ですけれども、多分ほかの一般の家庭よりも温かい家族なのではないかと思いますし、そこは自信を持てるような関係になれた、多分職員の方も含めてお互いが努力してなった結果だと思うのです。

最後に、里子が求めるものなのですが、普通の家庭です。お父さんがいて、お母さんがいて、子供がいて、たまに親戚が来たりとか、普通の家庭が欲しいのです。これは学校とか社会に出て、会社の先輩とかは教えてくれない事ですね。家族を教えてくれるのは家族だけなんです。なので、施設にいと多分、家族ってわからなくなってしまうのです。夫婦ってどうやってつくったらいいのだろうとか、お母さんってどういう存在なの、親戚の人と会った時どんな対応をしたらいいのとかが多分わからないはずなんです。

何で家族が必要かという、自分を見てくれる人が少なくとも世界に2人いる、里父と里母の2人いる、このことこそが本当に素晴らしいことなんです。それによって、自分はここにいていいのだ、自分の居場所はここなんだな、自分は存在していていいんだなと思えます。それが本当に大事なのだと思います。自分のことを肯定さえできれば相手のことも信用できるし、明るい未来も描けるし、その里子の未来への可能性が大きく広がると思うのです。その基盤をぜひ多くの里子や、施設に暮らしている方に提供していただければと思います。

14 宝物のタカちゃん

【里母】

今、小学校2年生のニックネーム、タカちゃんという女の子を養育しています。6歳の誕生日を迎え、幼稚園の卒園を間近に控えた年の2月から委託を始めました。

タカちゃんというニックネームの由来は、宝物という意味です。家族にとってタカちゃんは大切な存在であるんだよ。そして、タカちゃんにとっても家族は大切な存在であるよ。そういうことを感じてほしいという思いから、「いつもお父さんにとっても、お母さんにとっても、あなたは大切な大切な宝物だよ。」と言い続けてきました。「じゃあ、私は宝物のタカちゃんだね。」と言うようになり、タカちゃんという愛称になりました。今回もタカちゃんという愛称でお話をしたいと思います。

タカちゃんは、乳児院、児童養護施設で過ごしてきたので、家族というものを知らずに育ってきました。施設でも温かく育ててもらったのですが、やはり集団生活と家庭での生活では、生活スタイルやルールが違います。一緒に暮らし始めてからやっと家族がこういうものなのかなというのを少しずつ理解していったように思います。

施設の先生からも、今までの育ちについていろいろと情報をもらっていましたが、一緒に暮らしてみると、タカちゃんのことをわからないことだらけでした。献立一つ考えるにも、「これ食べられる？これは好き？」と一つ一つ確認しながらやっていたので、私としては新婚時代を思い出しました。主人に喜んでもらおうと思って、おいしいものをつくろうと頑張っていたころを思い出し、まるでタカちゃんとの新婚生活が始まったように、タカちゃんと一つ一つ丁寧に確認しながら生活を楽しんでいきました。赤ちゃんからの一緒に生活してきた積み重ねがないことが、こんなに不安定さがあるとは思いませんでしたが、これからゆっくり築いていければいいかなと思ってやっているところです。

少し前になりますが、ぽつりとタカちゃんが、「人生をやり直したい。お母さんの本当の子供になりたい。」と言ったことがあります。この一言の重さに私は押しつぶされそうになりました。まだ7歳の子供が人生をやり直したいと思うなんて、この苦しさから絶対に守ってあげなくてはとそのとき思い、「そんなふうに思わなくていいんだよ、タカちゃんは産んでくれたお母さんと、育ててくれるお母さんがいるんだから。産んでくれたお母さんがいたから今のタカちゃんがいるんだし、お母ちゃんはタカちゃんと出会えてとても幸せだよ。」と言って抱き締めました。

タカちゃんが将来、家庭を持ち、母親になったとき、乳幼児期の母親との触れ合いがないことで、子育ての不安定さがあるかもわかりません。でも、タカちゃんが母親として温かい家庭をつくり、愛情を持って子育てをしてほしいと願っています。そのために私は母親としての思いを言葉にして伝え、今までできなかった親子のスキンシップをしながら親子のきずなを築いていこうと日々、心がけています。

主人はいつも、タカちゃんの心と体を温かく包んでくれています。委託当初、男の人

に抵抗感があり、いつも私のそばに寄り添っていたのですが、今では主人にひざの上にもちょこんと座り、抱っこしてもらうことが日常になってきています。毎朝、主人が仕事に行くとき、家族みんな、玄関で「行ってらっしゃい。」と見送るのですが、そのとき主人の「今日も一日頑張るんだぞ。」と言、ハイタッチをしながら元気をタカちゃんにもらい、タカちゃんも、「お父ちゃんも頑張ってるね。」と笑顔で返してくれます。帰ってきたときは、「タカちゃん、今日は楽しかったか？元気だったか？」と一日の出来事や気持ちを受けとめてくれ、このひとときを大切にしてくれています。

こんな家庭でのひとこまがタカちゃんの気持ちをほっとさせ、元気の源になっているのかなと感じています。そんな私たちの思いをタカちゃんもわかってくれているのか、こんな話をしてくれたことがありました。「タカちゃんもこの家に来て、本当に幸せなんだ。交流中、施設の先生に、これからは施設で先生や友達と暮らす？それとも、里親さん家に行く？どうする？と聞かれたときがあったの。タカちゃんはまだおうちがどんなところだかよくわからなかったから、心配で、先生と一緒に泣きながら相談したんだ。でも、勇気を出して、行く、行きたいと言って本当によかった。お父ちゃん、お母ちゃん、タカちゃんを呼んでくれてありがとう。今度生まれ変わったら、お母ちゃんのお腹から産まれたい。」と話してくれ、胸が熱くなりました。日々、タカちゃんを大切に育てていかなくてもいけないという思いが強くなり、家族みんなと一緒に温かい家庭にしないと改めて感じました。現在、タカちゃんの笑い声が聞こえる家庭が持てていることに幸せを感じています。

私は養育当初、養育の重さに押しつぶされそうになりました。交流中、先生方がタカちゃんを、大切に愛情を降り注いで育ててこられたお話を聞き、また、先生とタカちゃんの信頼関係を見て、大切に育ててもらってきたタカちゃんを我が家で引き取ったけれど、タカちゃんを幸せにすることができるのかなと自問自答しながらの養育でした。でも、今では私自身の体の力も抜け、自然体で養育を始めてからは、タカちゃんが私たちの家族に幸せを与えてくれている、家族みんなでほっとできる家庭で生活できる幸せを感じるようになりました。

タカちゃんと一緒に積み重ねてきた時間はまだわずかです。本に例えると序章、始まって数ページしか経っていないかもしれませんが、タカちゃん存在は家族にとってかけがえのないものになっています。

里子を養育させてもらうことは、里子と里親両方を幸せにすることだと思いました。家族というものはどちらか一方が幸せを与えるものではなく、お互いに幸せにするものだとなこの2年間で学ばせてもらいました。娘たちも、自分たちも家族を持ったときはほっとファミリーをやり、幸せな温かい家庭を持ちたいと話してくれています。これからはいろいろなことがあると思いますが、ほっとファミリーを始めて本当によかったと感じているところです。

15 大人のバンビになる

【里母】

ただいま里子の中学2年生の女の子と短期委託でお預かりしている高校2年生の女の子と、実子の小学校1年生の子供がおります。中学2年生の里子ちゃんとの生活についてお話をさせていただきます。

私たち夫婦は、なかなか子供に恵まれませんでした。そんな中、私たちの知り合いに里親をされている方がいて、里親制度のことを知り、私たちに実子ができても、できなくても里親になりたいと思うようになりました。しかし、なかなか一歩踏み出せずにいたところ、結婚7年目にして子供を授かることができました。さあ、2人、3人、兄弟をと思っていたのですが、授かることができませんでした。

そんな中、東日本大震災があり、両親を亡くした子供たちがたくさんいるとのニュースを見て、私たちに何かできることはないのだろうか考えるようになり、里親になる思いが日増しに大きくなりました。新築をして、娘も幼稚園年長さんになり、里親登録をしましたが、娘もまだ小さいし、母が恋しい年齢ということもあり、娘がもう少し大きくなってから始められたらいいねと夫婦で話して、できれば2歳くらいの女の子がいいと思っていました。

登録して間もなく、中学1年生の子供をお願いしたいと児童相談所の方から連絡をいただきました。これも何かの縁と思い、会ってみようと思いました。

会ってみたところ、目がくりくり髪が毛くりくりのかわいい女の子で、「小さい子供が好き。」という言葉聞き、この子ならうちの娘ともうまくいくのではないかと思います。娘に、かわいいお姉ちゃんが来るよと伝えたら、娘も喜び、お姉ちゃんにおもちゃを貸してあげると言ってくれました。

うちに来た里子ちゃんはおびえた様子でくりくりした目で私たちを見ていました。しかし、娘が大活躍で「お姉ちゃん、お姉ちゃん。」といつもそばにいてくれて、里子ちゃんの居場所をつくってくれました。

里子ちゃんは来た当初、「ママ、お手伝い頑張るから、よろしくお願いします。」というようなお手紙を毎日書いてくれました。一度親と離れてしまった子供は、どこかで誰かとつながりたい。また離されたらどうしようと不安な毎日だったのだろうと思います。うちに来て10日目、児童相談所の方が里子ちゃん本人の意思確認をするため、1日、児童相談所で預かるとのことでした。

しかし、その日のお昼過ぎ、児童相談所の方から連絡があり、里子ちゃんは里親宅に帰りたいたいと言っているので、3時ごろお届けしますと連絡がありました。里子を受け入れる心づもりはありましたが、里親の意思確認はないのだと思いました。

里子ちゃんも2か月近く学校に行っていなかったため、学校に行くのを楽しみにしていました。学校に通い、期末テストがあり、テスト前日も勉強しておらず、テスト前日からしっかり勉強しなさいと言ったところ、注意はテストの点数を見てから言っ

われ、それだけ自信があるならと、楽しみにしていようと思ったのです。案の定、テストが返ってきたら、0点はないものの、10と20の間の点数で、里子ちゃんに、この点数だと高校に行けないよと伝えたところ「私、高校に行かなくてもいい。」と言ったので、思い余って、「もし、中学を卒業して就職となったら、自分の力で生活をしていかなくてはいけないんだよ。」と伝えたところ、高校に行く目標を持ってくれました。

家庭生活では、今までと違う環境、食生活だったため、自分の嫌いなものは食べない。「嫌いなものでも1つは食べようね。」と、里子ちゃんにも説明をして、今では嫌いなものでも1つは食べるようになりました。食後はみんなで片づけをします。今まで娘はあまり積極的に手伝ってくれませんでしたでしたが、里子ちゃんが進んでやっている姿を見て、娘も自然に手伝ってくれるようになりました。

お風呂は、私、娘、里子ちゃんと3人で一緒に入ったり、私が一緒に入れないときは里子ちゃんとおばあちゃんが入っています。そうした中、徐々におばあちゃんとお風呂の中で今まで話せなかった過去をぼつり、ぼつりと話すようになってくれました。

来た当初、1人で眠れないということで、私と娘と3人で寝ました。三段ベッドが届き、娘と里子ちゃんが寝るようになりましたが、まだ小学1年生の娘は、1人で眠るのが寂しいからママと寝ると言うので、里子ちゃんは、「ベッドが来たからここで寝るって言ったじゃない。」と怒りながら、ぼろぼろ泣きます。娘の気持ちもわかるし、里子ちゃんの気持ちもわかります。私は里子ちゃんに、「娘はまだ6歳で、もう少し大きくなったら1週間に1回、ママと寝るとなり、そのうち1か月1回になるんだから、長い目で見てあげてね。」と伝えました。初めのうちはなかなか納得してくれませんでしたでしたが、今は2人で話し合い、里子ちゃんが塾のときは、娘は私たちと寝るということに決まったみたいです。

うちは祖父母が自分の孫が増えたといって分け隔てなくかわいがってくれます。また、里子ちゃんも甘えられるので、私たちには言いづらいことを祖父母に相談しているようです。家族それぞれの役割で里子ちゃんをサポートできるのはありがたいことです。

中学生の母になり、里子ちゃんと心と心がぶつかり合うこともあります。一步一步お互いの心が近づいていると思います。里子ちゃんは私たちが想像できないくらいの苦勞をしてきています。私たちにできることは、ガラスのような心を私たちでカバーをして、しっかりした心に育てていけたらいいなと思っています。

このごろ里子ちゃんに私を動物に例えると何の動物と質問されました。私は、来たときは、生まれたてのバンビで、一生懸命1人で立とうとしている感じだったけれども、今は跳ね回っていて、いろいろなものに興味を持っているバンビだねと答えました。そうしたら、大人のバンビになったねと言われるように頑張ると言ってくれました。少しずつではありますが、成長を感じます。

里子ちゃんとの出会いは、縁があつてうちに来てくれたのだと思っています。家族が増えてますますにぎやかな毎日の日々を楽しみたいと思っています。

16 新しい家族のかたち

【里母】

現在、3歳11か月の女の子を受託して約1年が経ちました。我が家は結婚してからずっと共働きでやってきまして、夫婦2人とも子どもは好きだったのですが、子宝には恵まれませんでした。40代後半に差しかった頃、自分の人生を振り返って、このまま夫婦2人だけで暮らしていく生活は気楽かもしれないけれども、何か物足りない。そう自問したときの答えが、子育てをしてみたいでした。何か方法はないものかとあれこれ考えていくうちに、里親というキーワードが頭に浮かびました。養育家庭制度を知った後、登録するまでにはしばらく時間が必要でした。最終的にはあれこれ考えるより、やってみなければわからないということになり、登録に至りました。

里親候補として3回ほど申し込みをしましたが、第1候補になることはできず、もううちはダメかもしれないと諦めかけたところに、現在委託されている子のお話をいただき、ようやく初顔合わせにこぎつけました。交流が始まり、週3回ほど、半年間、乳児院に通いましたが、打ち解けるのにものすごく時間がかかる慎重な子で、納得するまではとても動かないぞという頑なな所がありました。面会に行っても、一切言葉を発しない。声も出さない。顔は緊張で引きつっている。ただ、抱っこだけは大好きでずっと抱っこされっぱなし。そんな沈黙の交流が長く続きました。

長期外泊の最初の1か月間が一番大変だったと思います。朝から晩まで、言葉のないコミュニケーションというのは想像以上に疲れるもので、こちらが一方的に話しかけ、それに対して首を縦に振るか、横に振るかだけ。自分では全く動かないので、私が持ち上げて家の中を移動させるといったありさまで、今思い出しても息の詰まるような先の見えない苦しさ、これが永遠に続くのだろうかという無力感に襲われたりもしました。

食事もするようになったのですが、食べるのはゼリー、ヨーグルト、プリンだけ。私が手作りしたものは一切だめでこれが心情的に辛かったです。そんな日々が続き、私の精神状態もギリギリだったのでしょうか。あるとき発作的に冷蔵庫の中のもの、戸棚の中のもの、ありとあらゆる食べ物、飲み物を全てテーブルの上に並べて、「ここにあるものの全部、Aちゃんのものだから、好きなだけ食べなさい。」と言って、ぽろぽろ泣き出してしまいました。その瞬間、Aちゃんの顔がはっと真顔になり、彼女も泣き出しました。2人で見つめ合ってぽろぽろ泣くうちに、お互いよくここまで頑張ってきたよねと何だか同志のような気持ちが湧いてきて、少しだけ距離が縮まったように思いました。

それを境にAちゃんのガードが少しずつ緩んできたのでしょうか。ある日、満面の笑みではしゃぎ回っているAちゃんを見て、夫婦2人きょとんと顔を見合わせてしまいました。その日からおてんばで、愛嬌のある女の子に豹変しました。幼稚園では活発で人懐っこいと担任の先生から聞いておりますが、頑固で融通がきかないところは以前のままで、周りの状況を見てその都度切り替えることが苦手なようです。

生まれて初めての運動会、午前中は何とかプログラムをこなしていたのですが、午後

にあったビッグバトンリレーというクラス対抗親子ゲームでひと騒動ありました。うちはパパと一緒に出場したのですが、ゲームの前からぐずり出し、どうあやしてもだめで、前の親子からバトンをもらって、さあ、行くよとパパが声をかけても、Aちゃんは断固嫌だと言い張ります。とっさにパパは何を思ったのか、右手にAちゃん、左手に大きなバトンを抱きかかえ、すたすたと走り出しました。Aちゃんは泣き叫びながらも、抱きかかえられたまま運ばれ、何とか乗り切りました。ゲームの後、パパは、うちの子だけ…と恥ずかしくて逃げ出したかったそうですが、クラスのママが、「Aちゃんどうしたの？パパ格好よかったじゃん。」とポンと肩を叩いてくれて、その一言に救われました。ママさんたちの温かな声掛けやクラスメートの励ましにどれだけ助けられたことでしょう。私自身うるっときてしまいました。

一番手こずったのが、スーパーでの買い物でした。子ども用の買い物かごを持たせて買い物をするのですが、レジの前に来ると台の上にかごを乗せるのを嫌がり、それを無理に台に乗せようとすると、「イヤ！」とひっくり返って大声でわめき出すことが何度も続きました。色々原因を考えてみたのですが、ちょうど昼前に買い物に行くことが多かったのも、もしかしたらお腹が減っているのかなと思い立ち、その次に買い物に行った時に、あらかじめ飴を用意しておきました。ぐずりそうになった時に、ちゃんとピーしてもらったら飴あげるからねと言うと、その日はレジをスムーズに済ませることができました。そしてすかさず、今日はいまうまくピーできたねと褒めました。本人も得意そうでした。

交流期間も含めて約2年、Aちゃんと付き合ってきて、正直、里親なんて私には無理だと投げ出したくなるのが何度もありました。それでも今まで続けてこられたのは、この子を信じてみよう。この子は絶対に変わるという信念のようなものが根底にあったからだと思います。大の大人が2、3歳の子どもの前で、ママはどうしたらいいのかわからないとぼろぼろ涙を流したことが何度もありました。そうやって未熟で弱い自分をさらけ出し、本気でぶつかってきたことが子どもの心を揺さぶったのではないかと思います。幼稚園に入ったばかりの頃、「私はママのお腹から産まれてきたんじゃないの？」とストレートに質問をぶつけてきたことがありました。私は正直に、「そうだよ、Aちゃんは別のママのお腹から産まれてきたんだよ。でも今、一緒にいることが大切で、それが家族なんだよ。うちに来てくれてありがとう。あなたは大事な大事なうちの子だよ。」と答えました。幼いなりに事実をきちんと受け止める強い心を持ってほしいというのが私たち夫婦の願いです。保護者会でもうちが養育家庭であることをオープンに話しました。ママさん達から、「最初はびっくりしたけれども、言ってもらってよかった。」「そういう家族の在り方もあるんだな…と私たちも勉強になる。」という言葉をかけてもらい、じーんとしました。

最近、Aちゃんが「もっと早くパパとママに会いたかった。ここに来るのが遅くなってごめんね。」と言ってくれます。

17 共働き里親奮戦記～奮闘のさきに見えてきた幸せな絆～

【里母】

夫と、保育園年長の男の子の3人家族に、今年2歳の女の子が委託されました。里子の女の子は上の子と同じ保育園に入れなかったのも、朝は2か所の保育園に行ってから出勤し、夕方は6時半ぐらいに帰ってきて、夕御飯を食べさせ、お風呂に入れて、9時には寝かせるという、本当にばたばたした毎日を送っています。

私が里親の登録を具体的に考えるようになったのは、上の子が2歳になって手がかからなくなって、もう一人子育てしてみたいと思った頃です。学生のころから、保育園が障害児の施設か、子供にかかわる仕事をしたいとずっと思っていました。その夢はかなわなかったのですが、近所に養護施設があり、毎日のようにその子どもたちが幼稚園に登園する姿を見ていたことが背景にあります。集団生活から、また集団の生活に帰っていくのだと、その様子を見ながら思っていました。

そんなことを思いながら、里親という制度をいろいろ調べる中でやってみようという気持ちが固まりました。ちょうど3年前、3・11の東日本大震災が起きた年のことでした。新聞記事で、親を亡くした子供がたくさんいるという記事を目にしながら、私たちにできることはやっていこうと思い里親登録を決心しました。

委託されたAちゃんと初めて会ったのは3月の終わりでした。自転車の後ろに乗っていると「かえるのうた」とか「ちょうちょ」とか歌を歌いだし、カメラを向けるとVサインをする、とても愛嬌のあるかわいらしい女の子です。仕事をしているので、交流は1週間に1回くらいのペースで始まりました。乳児院の親子ルームと呼ばれる部屋で朝10時から12時半くらいまで一緒に遊んで過ごすということを繰り返しました。お昼御飯も4人で一緒に食べました。母親との関係がまずできたほうがいいということで、私1人で交流することもありました。

Aちゃんは、その部屋に連れてこられると、最初はしくしく泣いていました。私と2人のときは、「ドキドキしちゃうね、泣いていいんだよ。」と抱っこして言葉がけしながら窓の外のこいのぼりを眺めたりしていたのですが、上の子が一緒の時は、やはり遊ぶのが楽しくて、ボーリングをやったり、アンパンマンのおもちゃで遊んだり、楽しい時間が流れていきました。

交流が始まって1か月ほどした頃、とても印象に残ることがありました。Aちゃんが私たち家族に会うのをとても楽しみにしてくれていることがわかった時のことです。Aちゃんの勘違いだったのですが、会いに来てくれる日だと思い込んだAちゃんが「お買い物、行かない。」と駄々をこね大泣きしたということです。自分だけに会いに来てくれる人がいるということが、どれだけ楽しみなことなのかがよく分かった一件でした。4人で外出した後も、4人で撮った写真をうれしそうに眺めているとか、うれしかったことを思い出すように、乳児院に帰ってきてからもにこにこしているとか、そんな様子を先生から聞かせていただきました。

1週間外泊したときは、2～3時間一緒に過ごすのとは全然違い、いろいろなAちゃんの姿がありました。やはり泣かれてしまったことがとても苦労したことです。車に乗せると泣き、おむつをかえようとする大泣き、ベビーカーに乗せて雨よけのカバーをかけようとする大暴れという感じでした。昼間、公園に行ってもベビーカーからおりようせず、1週間一緒にいる中で外を歩く姿を本当に一度も見なかったという印象です。夫は、甘えたいときに甘えられなかった分、いっぱい抱っこしてあげたいねと言って、ぎゅうってしてあげることがとても多かったです。1週間の外泊後、委託に話が進んだのは保育園入園のめどが立ったからです。保育園事情が厳しくて、家から通えるところに保育園が見つかったのはとても幸運でした。

一緒に暮らすようになって一番苦労したのは、上の子の嫉妬でした。私がAちゃんをだっこしているだけでいらいらして、朝、保育園に行くときの支度も自分でできなくなってしまって、着がえも歯磨きも、ママやってという状態になって、2人がぐずぐず、2人が大泣きという日もあり、朝から遅刻覚悟という日が続きました。しかし、一方ではAちゃんがとてもかわいくて、先生から保育園ではAちゃんの話をよくしていますと聞かされていました。妹ができたことがうれしくて、「にいにいと一緒にお風呂入る？」と言って、着がえも介助してあげたり、朝も靴を履かせてあげたり一生懸命妹の世話をしていました。

今では、「だっこ、だっこ。」と、保育園から帰ったらだっこをせがむ。私はそれに応えてあげられるのがとてもうれしいのです。日曜日の朝、目が覚めて布団の上でごろごろするとか、日曜日にお弁当を持って公園に行って4人で遊ぶとか、そういった何気ない日常に幸せを感じています。

里親の皆さんとの交流は、私も仕事があって毎月の定例サロンにはなかなか行けないので、イベントにばかり行ってました。公園でのピクニックや河原でのバーベキューに行ったり、クリスマス会でボーリングをやったり、そんなレクリエーションにばかり顔を出していたのですが、大きい子が小さい子の面倒を見ながら遊んでいる光景はとても居心地がよくて、里親さんとの交流に参加するとすごくほっとする感じがいつもしていました。

乳児院の先生からは、「3月の出会いから委託が決まってお別れするまで、3か月という短い期間でしたけれども、びっくりするぐらいAちゃんの言葉は増えて、感情も表情も豊かになって、自信に満ちたお姉さんになりました。改めて家族は必要な存在だと感じました」というコメントをいただきました。

先月、Aちゃんの保育園で運動会があったのですが、その運動会に上の子と私と夫と一緒に参加し、競技にも一緒に出て、とても幸せなひとときを過ごさせてもらいました。うちに来て、Aちゃんがたくさん私たちに甘えて、私たち家族と一緒にたくさんうれしい思い出を積み重ねていって、大きくなった時、自分の生い立ちを振り返った時に踏ん張って生きていけるAちゃんになってほしいなと願っています。

18 周りの方々に感謝！2人の子供に大感謝！

【里母】

私たち夫婦は、今まで2人の子供を預かりまして、現在2人目の6歳の男の子を養育しています。

私たちが養育家庭を目指したきっかけは、養育家庭のことを取り上げたテレビ番組を見たことでした。子供に恵まれなかった私たちに養子縁組という選択肢もあったのですが、2人の中で何かしっくりこない感じもありました。しかし、その番組を見た時に、夫婦ともに雷に打たれたような衝撃を感じ、食い入るように見ました。そして、その年の体験発表に夫婦で出向き、主人がぼつりと「一生の目標が決まった気がする。」と言ってくれ、養育家庭になるために動き出しました。

1人目の子は、交流の早い段階から私たちに慣れ、自然に私をママと呼んでくれて、幸せな交流時間を持ってました。でも、家庭に来てからは、赤ちゃん返り、試し行動などで、落差が激しかったです。おおらかな気持ちで受けとめる余裕もなく、人に頼ってはいけないという間違った先入観もあり、初めの2か月ぐらいは地獄でした。その時に、児童相談所の方の電話や訪問により、地獄の中でも救いをもらいました。悪戦苦闘の毎日でしたが、2か月を過ぎると私たちの信頼も得られ、その年に開催した乳児院の運動会に参加した時は私のもとを離れず、笑顔で楽しそうに親子競技に興じている姿を見て、やっとうちの子になってくれたのかなと実感しました。その後、子供の家庭復帰が早まることになったのですが、私たちも頭では家庭復帰は喜ばしいことと思いながらも、心ではもう我が子のように愛してしまっていたので、夫婦で何度泣いたことかわかりません。しばらくは夫婦とも精神的に参ってしまい、普通の生活ができないような状態でした。こんなに別れがつらいなら、養子縁組を考えようと主人に相談したこともありましたが、主人は「何のために養育家庭をやろうと思ったのか思い出してほしい。でも、どうしても辛くて続けられないならそうしてもいいよ。」と寂しそうに言いました。元々子供を育てたくて始めた事、様々な情報を得るうちに、養子縁組家庭に比べ、養育家庭希望者は極端に少ないものの、社会的養護が必要な子供にとっては養育家庭の方がニーズが高いという現実を知り、私たちは養育家庭を希望したのでした。悩みましたが、やっぱり続けていこうと夫婦で決めました。

そんなこんなでつらい日々を乗り越え、2009年秋に新たなお子さんの紹介をいただきました。もうすぐ1歳になる赤ちゃんでした。少し発達ののんびりした子で、将来何か発達障害のような形があらわれるかもしれないというお話でした。でも、おとなしくて手のかからない子ということでしたし、交流中も穏やかな性格で、こちらの言うことにも反応してくれるので、あまり心配していませんでした。2人きりで時間を持たせてもらうようになって、職員さんからお聞きした面とは違う面も見られ、ただおとなしい子というよりは、刺激が少ない生活ゆえに開花していない面がたくさんある気がしました。本格的な委託の前に行く2泊3日のお泊りを経験した後、一旦施設に戻って生活す

る段になり、私がさようならをすると、今までに聞いたこともない大声で狂ったように泣き叫んだのですが、その時、この子は感情が希薄でも淡泊でもなく、その感情の表し方を知らなかったし、それだけ離れたくないという人と出会えていなかったのではと思いました。その後は毎日のように会いに行っても、顔をそむけ、一緒に遊ぼうとしなくなってしまう日々が続いたので、せっかくできてきた信頼が損なわれてきてしまっているのかと思った私は、早期の委託をお願いして、2009年暮れ、無事に我が家に迎えることができました。その翌日から、病院通いが続くなどいろいろと悩みが続きましたが、児童相談所や区の子ども発達センターでも親身に相談に乗っていただき、助けてもらいました。子供が幼稚園に上がると、園庭を走り回り、順番を無視して遊具で遊び、興奮すると近くにいる子を叩いてしまったりと、問題が起こり悩みました。活動にもついていけず、特に不器用なので、先生に手伝ってもらわないと着がえ、工作、食事ができず、御迷惑をかけてしまいました。しかし、園長先生はじめ、先生方が私たちの事情を酌んでくださり、親身で適切なフォローをしてくれました。私も自分なりに発達障害児への生活指導の本などを何冊も読んで勉強したり、子ども発達センターの先生から御指導いただいたりしながら、年少の1学期は、登園してから10時の活動まで、毎日子供にマンツーマンディフェンスでフォローしました。いろいろとある度、いろいろな努力はしていましたが、一人一人に合った手間暇をかけられるのが養育家庭の良さかなと思っています。また、子供や私たち夫婦のスタンスを理解してくれるお母様方にもめぐり会え、精神的にも救われる思いがしました。そして、何よりの先生は幼稚園での同級生、お友達でした。幼稚園という環境で親の手を離れることで、よくしゃべれるようになり、積極性も出てきて、いろいろな事にチャレンジしてくれるなど、ものすごく成長しました。

このように、この子を預かってから、子供は親だけが育てるものではないということを実感しました。私たち夫婦はこの子の親ですが、児童相談所や子ども発達センター、幼稚園や私たちの親、兄弟、地域の方々までたくさんの人がチームでこの子を育てていると思っています。考えてみれば、完璧な人間などいないし、間違いや、失敗もあるのが人間です。でも、間違えたり、失敗した時、素直に人に謝り、助けてもらったり、そうなる前によい知恵を借りるために相談したりと救いを自分から求めれば、必ず誰かが応えてくれるということも事実だと思います。世の中そう捨てたものではないよということを子供には教えていきたいです。まだまだ子育ての途中ですが、周りの方々に感謝、たくさんのことを私たちに教えてくれている2人の子供に大感謝です。そして、社会的養護を担う仲間が増えてくれたら嬉しいし、社会的養護を受けている子供や担っている養育家庭を認知し、そういう親子関係も当然ありとみんなが思ってくれる社会になってくれたらいいなと思っています。

19 里親としての軌跡

【里母】

私は最初、養育家庭ではなかったのですが、10年間、フレンドホームとして活動してまいりました。ちょっと聞きなれない言葉かもしれませんが、施設で暮らす親御さんなどの面会のない子供たちと交流をします。週末などに施設に行って、1日お預かりして、外出をしたり、お正月とかゴールデンウィーク、夏休みに家でお泊りをしてお預かりをする制度になります。

何人もお預かりしたのですが、その中で小学校2年生の女の子が外泊で家に来て早々、今回は何日お泊りしていいの？と訊かれたのです。非常に切ない気持ちになりまして、やはり子供たちには温かい家庭みたいな、そのようなものが必要なのだな、さみしいのだなというのを感じました。その後、養育家庭で登録をいたしまして、御縁がございまして、3歳になる男の子を御紹介いただきました。

交流して4か月ぐらい過ぎまして、そろそろ委託をというお話を頂戴したのですが、私はフルタイムで勤務いたしておりまして、お子さんを預かるには保育園が必須になります。次の日から毎晩毎晩、保育園回りが始まりまして、何とかして入れていただきたいというのを切に訴えましたがなかなか決まらず、結局、7か月目に保育園が決まりまして、無事に受託することができました。

お泊りでは来ていたのですが、初めておうちに来たときに、「ここが僕のおうち？」と訊いたので、「そうよ、3人のおうちよ」と答えましたら、納得したように、「うん」と答えて靴を脱ぎ始めました。この会話は保育園から帰宅したとき、お買い物から帰ったとき、おでかけした後、3か月以上毎回続きました。「ここは僕のおうち？」「そうよ。」その会話を毎回毎回繰り返しました。

U君と言いますが、U君は自分の希望が通らないと乳児院の先生の名前を呼びながら、1時間でも、2時間でも泣き続けました。「おむつがアンパンマンの絵じゃない。」「靴下が嫌。」「遊びたいの。」U君にとって本当は、理由は何でもよくて、どこまで許容してくれるのかを試していたように思います。最初は泣かれるのが嫌で希望に沿うようにしましたが、わがママがエスカレートするだけなので、だめなものはだめで、譲れないものは譲れないという態度をとることにしました。大泣きして少し落ちついてから膝の上に抱いて向き合い、目を見ながらだめな理由をきちんと説明します。その際にはU君をどれだけ大切に思っているかも必ず伝えます。わがママが強く、赤ちゃん返りを含むお試し行動もまだありますが、子供なりに新しい環境になじもうとしているのだと思います。間もなく5歳になりまして、受託から1年半になります。U君は5歳になると大人になると思っています。「もうすぐ大人になるからね。」と最近は言っています。

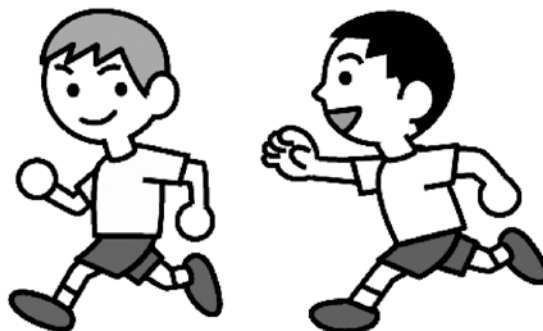
受託の中で一番印象深い思い出をお話しさせていただきます。

昨年暮れ、お正月にかけて友人の御夫妻と一緒に京都旅行に行きました。彼は卵アレルギーがありまして、やっとなぎに卵使用の食品を食べられるようになりました。

旅先で友人がクッキーと小さなケーキを買ってくれまして、U君はクッキーを食べ、ケーキを食べ、それから30分後にみるみる目が腫れ上がって、咳が出始めました。当然お正月ですので病院も休診で、休日診療の病院に電話をしても受け入れてもらえず、途方に暮れておりましたところ、御近所の飲食店の御主人が「病院を探すより救急車だよ」ということで、連絡を入れてくれました。救急車が来るまでの10分間、それはとても長くて、私は不安で体が震えました。幸い軽いアレルギー症状でしたが、安全のために1日入院をしまして、次の日の朝食のときです。それまでベッドの上で騒いでいた彼が、向かい合って座っている私に向かって、「ママが食べちゃだめ、食べちゃだめって言ったのに食べちゃったから痛い痛いになったの。ママごめんね。」私はその言葉で緊張が切れ、初めて彼の前で声を出して泣きました。症状が軽かったことの安堵感と、いつの間にか人を思いやる優しい子供に育っているのだなと思ってうれしかったのと、ほっとして大声を出して泣き続けました。すると、U君は私の頭をなでなでしてくれて、「大丈夫よ。僕がいるから大丈夫よ。」と言ってくれました。

子育ては非常に心身ともに大変で、まして私はフルタイムで働いておりますので、仕事と家庭と子育てと、いろいろなことをこなしますと自分の時間も取れないのが正直なところです。ですが、子供を育てているとうれしいこともたくさんあります。里親の専門員の先生、心理士の先生、児童相談所の先生、いろいろな方々にお力添えをいただきまして、何とか乗り越えてまいりました。今後もいろいろなことがあると思いますが、できればずっと彼の笑顔を守っていききたい。また、この小さな手を離さずに私たちがU君の安全で安心な場所であり続けたい。そう思っています。

以上です。ありがとうございました。



20 子ども同士のかかわりで成長すること

【里父】

私は50歳になったくらいのあるときにこの制度に出会いました。子供関係の仕事をしているものですから、養護施設の施設長さんと親しかったもので、里親さんに出したい子がいるんだけれども、受け手がなくて困っているんだよということでした。夏休みとか、土曜・日曜だけ遊びに行かせていいかいということで、「ああ、いいよ」という調子で受けた子が最初の子でした。小学校4年ぐらいのときにその出会いがありまして、1年ぐらい、冬休みとか土曜日とかいろいろなお付き合いをして、うちへ来て遊んでいました。うちも実子が2人いましたので、一緒に遊んでいました。そんなことのうちに、「しばらく里親になったらどう？」みたいなことになりまして、里親の手続はしていたものですから、そのまま子供を預かったという子が最初の出会いでした。

20年近くやっていて、これまで何人ものお子さんを預かったのですが、印象に残っている子が2人います。

1人が、中学生の1年か2年のころでした。家庭内暴力とかいろいろなことがありまして、この子はアスペルガーという症状を持っている子だということです。最初はどんな子かな、どうしようかな、大変だなという思いでいたのですけれども、見たところ全然普通の中学生と同じだし、どこが違うのかなという思いでした。学校へ行くと授業妨害があるとかいろいろなことがあったようなので、学校の先生とも随分やりとりをしたのです。何だか知らないけれども、うちへ帰ってくると全く普通の子なのです。「お前は荒川を渡ると乱れるんだな。」などと冗談を言っていました。

エピソードというか、自転車で学校に通うというルール違反をしていました。それが先生に見つかり、自転車を没収ということで、私が呼び出されて、そこで2人で謝るんですけれども、そのときも本当にみんないい先生でした。私は、謝ればいいと思っていたんです。そうしたら、先生から「お父さん、自転車は持って帰ってくれなきゃ困るんだよな。」と言われまして、「子供が乗ってきたんだから、子供に乗って帰らせよう。」と言ったら、ルール違反だというわけで、結局私が自転車に乗って長い道のりを帰りました。その後、この子に対しては貸しをつくりましたので、ずっとおとなしくなりました。

目標の高校にめでたく受かり、家庭内の調整がついたというのでその子は自宅に戻りました。今は大学4年になっていますけれども、一家の柱になっているみたいです。お母さんもちょっと病弱で、この子がいろいろ判断してお母さんの面倒を見ているみたいな、そういうところまでいきました。すばらしいなと思っているのです。

もう一人の子は、スポーツがうんと盛んな私立高校の自転車部に入っていた子でした。この子にもエピソードがありまして、修学旅行で北海道に行くとき、羽田集合だったのですが、何を間違えたか彼は成田に行っちゃったんです。一応、その日のうちに羽田に行かせて、キャンセル待ちの飛行機に乗るように言いました。自分でそんなことができ

る子だと思わなかったのですけれども、キャンセル待ちをして、千歳空港まで行ったのです。学校の先生も宿舎が北海道の山の中だったのでえらい心配して、私共と電話をかけまくりまして何とか行っただけです。ああ、一人で行ったなと思いました。これも語り草になっています。この子に自信がついたのはそれからですね。

中学生、高校生あたりはうるさくて、何を考えているか分からないところも若干あるようですけれども、つき合っていると、本当にまだ高校生はかわいいという感じです。最初の1人目は確かにいろいろな意味で緊張もするし、大変なんですけれども、2人目、3人目と預かっているうちにだんだん慣れてしまいます。子供同士も、子供同士の付き合いのほうがいいみたいで、大人と子供が一对で付き合うと厳しくなって、煮詰まってしまうんです。煮詰まるというか、子供も嫌みたいです。逃げ出したくなるみたいなのです。子供同士が何人かいると2階へ群れてって、私の悪口をなんか話しているようです。そんなことがあるのでちょうどいいのかなと思います。

もう一つここで申し上げておいたほうがいいかなと思うことがあります。虐待を受けた子の対応のことです。ちょうど高校3年生ぐらいで我々の関係が終わるのですけれども、つき合っていると、虐待を受けて、それを乗り越えたかどうかが見えていくのです。虐待を乗り越えたというのは、虐待を受けたトラウマか何かそういう難しいことはわかりませんが、そういうものを乗り越えたかどうかが見えていくとわかるので、そこまで我々は何とかやってあげたいなという気はしています。

乗り越えたかどうかはわかるのは、人を恨まなくなるんです。親が悪いから自分はこうなったとか、そういう感じのことを言っているうちはまだだめなんです。世の中に出てもなかなかうまくいかないなと思われまいます。人生のある時期、子供のときに不利なことがあったわけですから。そのときに親だとか社会を恨まないで、自分の運命だと思えるようになることがポイントです。

子供だから運命などという言葉はわからないのでしょうけれども、いろいろなことを自分の問題として受け入れたときがふっと虐待を乗り越えたときみたいな感じがします。本当の心の中はわからないのですけれども、18歳で何とかそこに到達できればいいなという思いがしています。

私の役割としては、親を恨んだりしないで、自分の定めみたいなものを理解するとか、受け入れる子になってくれればいいなと思うし、現実到现在まで育てた子は大体そういう流れで社会に出ています。虐待を乗り越えさせるというか、そういうアドバイスはできないんですが、子供同士がそれをやっているんです。子供同士の会話の中で、お前のお母さんをそんなに恨んじゃだめだよとか、そろそろ踏ん切りを付けろとか、そんなことを言い合っていますね。我が家ではいつも高校生が複数いたのでそういう環境ができたのがいいのかなという思いではいます。

平成 26 年度 養育家庭体験発表会 参加者数

開催日	開催場所	区市町村	担当児童 相談所	参加人数				
				養育家庭・ フレッドホーム	区市町村 職員	民生・ 児童委員	一般・ その他	合計
平成26年10月 5日	ティアラこうとう	江東区	江東	4	2	2	19	27
平成26年10月16日	西東京市住吉会館ルピナス2階研修室	西東京市	小平	1	0	11	9	21
平成26年10月16日	日野市役所505会議室	日野市	八王子	6	11	26	36	79
平成26年10月20日	清瀬市児童センターころぼっくる	清瀬市	小平	2	0	0	15	17
平成26年10月20日	神田さくら館7階研修室	千代田区	センター	1	4	3	14	22
平成26年10月23日	青梅市役所2階会議室	青梅市	立川	3	8	7	16	34
平成26年10月25日	羽村市コミュニティーセンター	福生市・羽村市	立川	9	8	19	17	53
平成26年10月25日	世田谷区立男女共同参画センターらぶらす研修室3・4	世田谷区	世田谷	2	17	0	40	59
平成26年10月25日	昭島市役所内市民ホール	昭島市	立川	5	10	10	19	44
平成26年10月26日	中央区教育センター視聴覚ホール	中央区	センター	1	8	4	20	33
平成26年10月27日	町田市市民フォーラム	町田市	八王子	12	15	14	31	72
平成26年10月30日	府中市中央文化センター「ひばりホール」	府中市	多摩	3	6	20	20	49
平成26年10月30日	三鷹産業プラザ	三鷹市	杉並	1	16	1	34	52
平成26年10月31日	南大塚地域文化創造館ホール	豊島区	センター	5	9	33	53	100
平成26年11月 5日	瑞穂町子ども家庭支援センターひばり	瑞穂町	立川	4	4	5	13	26
平成26年11月 6日	あきる野市役所503・504会議室	あきる野市	立川	9	5	25	11	50
平成26年11月 6日	新宿区子ども総合センター3階研修室	新宿区	センター	0	34	26	27	87
平成26年11月 6日	稲城市地域振興プラザ	稲城市	多摩	1	9	13	26	49
平成26年11月 7日	板橋区立グリーンホール	板橋区	北	0	0	0	77	77
平成26年11月 7日	健康プラザかつしか小ホール	葛飾区	足立	7	8	4	19	38
平成26年11月 7日	渋谷区役所神南分庁舎 会議室	渋谷区	センター	2	5	13	17	37
平成26年11月 8日	品川区立荏原第五地域センター	品川区	品川	1	2	32	16	51
平成26年11月 8日	文京シビックセンター内4階シルバーホール	文京区	センター	1	5	16	60	82
平成26年11月 8日	みなと保健所8階大会議室	港区	センター	3	8	7	27	45
平成26年11月 8日	ひかりプラザ203・204	国分寺市	小平	1	1	3	15	20
平成26年11月 8日	墨田区役所12階122会議室	墨田区	江東	0	4	0	45	49
平成26年11月10日	武蔵村山市役所	武蔵村山市	小平	3	6	3	15	27
平成26年11月10日	日の出町役場内3階会議室	日の出町	立川	6	3	16	9	34
平成26年11月12日	調布市文化会館「たづくり」12階大会議室	調布市	多摩	2	8	3	46	59
平成26年11月13日	東部市民センター	小平市	小平	3	12	1	7	23
平成26年11月13日	武蔵野プレイス	武蔵野市	杉並	4	4	4	24	36
平成26年11月14日	東久留米市役所1階 市民プラザ	東久留米市	小平	5	3	15	11	34
平成26年11月14日	台東区役所10階1001大会議室	台東区	センター	0	42	20	41	103
平成26年11月15日	目黒区総合庁舎1階 E会議室	目黒区	品川	0	1	15	26	42
平成26年11月16日	足立区こども支援センターげんき5階研修室3	足立区	足立	4	8	3	27	42
平成26年11月17日	東大和市役所 会議棟2階	東大和市	小平	7	0	1	9	17
平成26年11月17日	立川市子ども未来センター	立川市	立川	4	13	14	45	76
平成26年11月18日	奥多摩町子ども家庭支援センターきこりん	奥多摩町	立川	8	10	3	12	33
平成26年11月20日	八王子市生涯学習センタークリエイトホール5階	八王子市	八王子	21	14	2	107	144
平成26年11月21日	練馬区生涯学習センター	練馬区	センター	3	42	20	55	120
平成26年11月21日	小金井市役所第2庁舎801会議室	小金井市	小平	3	0	3	12	18
平成26年11月22日	くにたち北市民プラザ	国立市	立川	3	8	6	63	80
平成26年11月22日	あんさんぶる荻窪	杉並区	杉並	7	2	0	32	41
平成26年11月26日	中野区役所会議室	中野区	杉並	1	4	0	51	56
平成26年11月28日	いきいきプラザ3階マルチメディアホール	東村山市	小平	1	1	2	6	10
平成26年11月28日	多摩市子育て総合センター2階活動室	多摩市	多摩	0	8	0	32	40
平成26年11月29日	赤羽文化センター	北区	北	2	2	0	44	48
平成26年11月29日	狛江市防災センター	狛江市	世田谷	0	1	8	35	44
平成26年11月29日	大田区蒲田地域庁舎5階小会議室	大田区	品川	1	2	38	15	56
平成26年11月30日	アクロスあらかわ	荒川区	北	3	4	17	26	50
平成26年12月15日	江戸川区総合文化センター	江戸川区	江東	5	33	60	61	159
合 計				180	430	548	1507	2,665

平成 26 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	10/5 江東区	10/16 西東京市	10/16 日野市	10/20 清瀬市	10/23 千代田区	10/23 青梅市	10/25 福生市・羽村市	10/25 世田谷区	10/25 昭島市	10/26 中央区	10/27 町田市	10/30 府中市	10/30 三鷹市
①性別 男性	5	3	12	0	3	9	7	8	6	2	6	5	7
女性	13	18	48	12	13	4	16	26	15	12	35	22	26
不明・無回答	0	0	2	0	0	2	1	1	2	0	0	0	0
②年齢 ～20代	0	1	3	0	1	1	1	6	0	4	4	1	8
30代	4	3	7	2	4	1	1	3	3	1	5	2	4
40代	4	5	10	5	2	1	4	11	1	3	5	3	8
50代	4	3	16	5	3	4	3	11	7	4	17	4	6
60代	4	9	19	0	5	7	14	3	9	1	6	14	5
70代～	1	0	4	0	1	0	1	1	3	1	3	3	1
不明・無回答	1	0	3	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
③所属 一般	9	8	12	5	4	2	5	9	8	4	4	5	8
民生児童委員	2	10	24	0	6	5	13	0	7	3	8	19	1
主任児童委員	0	1	6	0	1	1	0	0	3	0	4	1	0
養育家庭	2	1	5	2	0	1	2	2	2	0	6	0	1
フレッドホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
都職員	0	0	3	0	0	1	1	3	1	0	1	0	2
区市町村職員	2	0	3	0	1	1	0	14	1	4	4	0	12
学生	0	0	0	0	2	0	0	3	0	3	3	0	4
その他	2	0	7	5	2	1	2	3	1	0	10	2	5
不明・無回答	1	1	2	0	0	3	1	1	0	0	1	0	0
2. 養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）													
区報・市報・ホーム ページ	9	8	30	3	4	10	17	11	15	5	18	10	5
ポスターで	1	1	4	2	0	0	2	3	2	1		1	2
児相・子ども家庭支援 センター	5	2	25	5	2	4	8	14	9	0	10	7	10
児童福祉施設	2	0	6	2	0	2	1	3	2	3	7	2	7
インターネットで	1	2	3	0	3	0	0	1	0	2	1	0	5
テレビ番組	1	1	5	1	1	0	3	4	1	2	1	0	0
テレビ CM	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ラジオ	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
新聞・雑誌	1	0	3	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0
知人・友人	1	0	5	3	3	1	0	5	2	1	4	1	9
図書	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
公開講座	0	0	4	0	2	0	1	1	0	2	4	0	2
その他	1	6	6	5	3	2	1	5	3	3	9	6	1
不明・無回答	1	0	0	1	0	1	1	2	0	0	2	2	0
3. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）													
区報・市報で	6	8	19	2	2	5	13	9	12	5	4	7	6
都報で	1	3	4	1	0	1	2	0	2	1	3	1	0
ポスターで	1	0	2	0	1	0	0	5	1	0	1	1	1
チラシで	3	0	23	3	4	6	11	7	12	3	16	4	13
インターネットで	2	2	2	1	3	0	0	1	0	1	2	3	6
知人に勧められて	4	0	4	1	3	1	0	5	2	0	8	2	4
過去に参加	0	2	10	3	2	3	4	3	1	2	8	1	0
問い合わせた	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	1	2
その他	1	6	14	4	2	2	3	10	2	2	8	8	5
不明・無回答	0	0	1	0	0	1	0	11	1	0	1	4	0
4. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）													
養育家庭になりたいと 思っていたから	3	1	4	0	2	0	0	5	4	0	2	0	4
養育家庭制度に興味・ 関心があったから	10	12	19	4	12	3	10	21	11	11	13	9	15
子育てに関わる話が 聞けると思ったから	1	5	20	4	1	4	12	4	6	3	11	12	3
仕事や学問などの参 考にするため	2	4	19	6	6	5	8	12	6	7	13	4	17
その他	2	3	5	3	2	3	1	3	1	1	8	4	0
不明・無回答	0	0	4	0	0	1	1	2	0	0	2	2	0
5. 相談コーナーを利用されますか。または、利用しましたか。													
はい	2	2	4		1	0	1	2	4	1	33	0	1
いいえ	16	17	51	8	15	10	20	28	16	12	8	21	32
不明・その他	0	0	0	0	0	5	3	0	3	1	0	6	0
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。													
とても良かった	13	15	32	4	12	9	16	27	13	13	28	17	17
良かった	5	3	23	7	3	5	5	4	4	1	7	7	15
普通	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	0	3	6	0	0	1	3	4	6	0	6	3	0
感想数	7	11	37	6	11	8	16	21	12	7	33	12	22
アンケート回答	18	21	62	12	16	15	24	35	23	14	41	27	33
参加者総数	27	21	79	17	22	34	53	59	44	33	72	49	52

平成 26 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	10/31 豊島区	11/5 瑞穂町	11/6 あきる野市	11/6 新宿区	11/6 稲城市	11/7 板橋区	11/7 葛飾区	11/7 渋谷区	11/8 品川区	11/8 文京区	11/8 港区	11/8 国分寺市	11/8 墨田区
①性別 男性	9	3	9	6	5	3	5	3	3	7	6	2	8
女性	57	5	24	43	31	67	18	15	40	32	14	12	31
不明・無回答	0	2	1	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0
②年齢 ～20代	8	2	0	10	0	2	3	3	5	7	0	4	21
30代	8	2	2	7	4	16	4	1	2	4	2	1	4
40代	9	1	3	8	3	29	6	0	7	11	5	3	7
50代	12	1	8	10	13	11	5	0	10	3	5	4	3
60代	26	3	17	11	12	9	4	7	17	11	3	2	3
70代～	3	1	4	3	4	3	1	7	5	3	4	0	0
不明・無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1
③所属 一般	14	2	2	7	8	48	9	3	5	11	12	6	12
民生児童委員	23	4	21	11	11	0	3	11	28	14	2	3	0
主任児童委員	3	0	2	8	2	0	0	0	4	2	2	0	0
養育家庭	2	0	5	0	1	0	4	0	1	0	0	2	0
フレンドホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
都職員	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0
区市町村職員	10	0	1	9	9	0	0	0	2	5	1	0	4
学生	6	0	0	3	0	2	1	2	5	6	0	3	18
その他	7	3	0	9	3	20	4	1	0	0	1	0	1
不明・無回答	0	0	2	0	2	0	2	1	1	0	2	0	0
2. 養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）													
区報・市報・ホーム ページ	20	3	17	14	16	17	9	10	21	16	7	2	5
ポスターで	4	0	4	2	5	3	3	1	2	5	4	1	2
児相・子ども家庭支援 センター	30	6	14	20	13	16	8	3	11	12	10	3	5
児童福祉施設	4	3	2	4	1	1	2	0	6	3	0	1	4
インターネットで	3	0	1	5	0	0	0	0	1	3	1	0	1
テレビ番組	0	0	4	3	0	11	2	0	5	2	2	0	1
テレビ CM	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
ラジオ	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
新聞・雑誌	1	0	2	4	2	8	1	1	2	3	1	0	1
知人・友人	7	2	1	4	1	4	2	5	2	5	1	4	4
図書	0	0	0	1	0	2	0	0	2	1	0	0	1
公開講座	3	2	2	3	0	1	1	1	8	3	0	0	13
その他	9	0	6	11	14	33	4	4	7	3	1	4	10
不明・無回答	0	0	0	0	1	0	1	1	3	5	1	0	0
3. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）													
区報・市報で	15	3	12	7	14	7	5	5	6	12	4	1	3
都報で	2	1	2	0	0	3	3	5	4	2	0	0	0
ポスターで	3	0	1	1	4	2	1	3	1	5	6	0	1
チラシで	17	1	12	13	8	10	11	0	13	4	8	6	11
インターネットで	2	0	0	3	1	1	3	0	0	5	1	1	6
知人に勧められて	7	1	0	3	3	6	0	7	3	5	1	4	1
過去に参加	14	5	12	4	4	1	0	0	15	5	3	2	2
問い合わせた	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	2	0	1
その他	19	2	6	20	12	48	5	2	15	6	0	4	13
不明・無回答	0	0	1	0	2	0	2	1	1	3	1	0	1
4. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）													
養育家庭になりたいと 思っていたから	3	2	0	3	0	2	3	0	4	4	1	1	3
養育家庭制度に興味・ 関心があったから	21	4	16	23	12	22	10	5	25	10	6	7	13
子育てに関わる話が 聞けると思ったから	25	3	14	9	12	35	4	12	11	11	7	4	5
仕事や学問などの参 考にするため	21	7	10	22	8	8	7	5	12	12	5	5	19
その他	9	0	3	3	9	17	0	0	7	3	1	4	3
不明・無回答	5	0	3	0	1	0	2	1	1	2	4	0	0
5. 相談コーナーを利用されますか。または、利用しましたか。													
はい	2	0	0	1	0	2	3	1	2	0	1	0	2
いいえ	64	6	27	22	33	68	15	17	34	30	20	10	37
不明・その他	0	4	7	26	3	0	0	0	10	9	0	0	0
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。													
とても良かった	42	9	26	24	16	29	10	14	33	22	13	8	22
良かった	20	1	5	19	14	34	10	2	7	13	7	4	12
普通	0	0	1	0	2	1	1	0	0	2	0	0	1
あまり良くなかった	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	4	0	2	6	0	5	2	2	6	2	1	2	4
感想数	40	7	24	30	22	29	14	13	29	13	6	9	20
アンケート回答	66	10	34	49	36	70	23	18	46	39	21	14	39
参加者総数	100	26	50	87	49	77	38	37	51	82	45	20	49

平成 26 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/10 武蔵村山市	11/10 日の出町	11/12 調布市	11/13 小平市	11/13 武蔵野市	11/14 東久留米市	11/14 台東区	11/15 目黒区	11/16 足立区	11/17 東大和市	11/17 立川市	11/18 奥多摩町	11/20 八王子市
①性別 男性	2	4	7	2	0	6	11	4	2	1	7	2	6
女性	4	16	27	8	19	16	61	30	26	8	40	15	38
不明・無回答	1	1	0	0	0	12	2	3	2	0	3	0	0
②年齢 ～20代	0	0	6	2	6	0	8	15	9	1	5	0	16
30代	1	1	9	2	4	1	14	3	3	0	8	4	5
40代	0	0	7	3	3	3	7	3	2	1	11	5	12
50代	4	2	6	3	5	4	20	8	5	2	11	3	6
60代	1	15	5	0	0	11	15	6	9	5	12	5	5
70代～	1	3	1	0	1	3	8	1	1	0	2	0	0
不明・無回答	0	0	0	0	0	12	2	1	1	0	1	0	0
③所属 一般	3	4	9	5	7	4	8	7	5	3	10	1	15
民生児童委員	0	14	0	0	1	11	15	8	3	1	9	3	0
主任児童委員	0	2	3	1	2	2	4	7	0	0	4	0	0
養育家庭	1	0	2	2	2	1	3	0	2	3	3	6	6
フレンドホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
都職員	1	0	2	0	0	1	5	0	0	0	7	1	4
区市町村職員	1	1	6	0	1	1	15	0	0	0	5	1	2
学生	0	0	2	0	4	0	0	15	9	1	1	0	11
その他	1	0	8	1	2	1	18	0	11	0	11	5	5
不明・無回答	0	0	2	1	0	13	6	0	1	1	0	0	1
2. 養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）													
区報・市報・ホームページ	2	10	19	2	8	11	29	22	6	2	16	6	14
ポスターで	0	1	4	1	1	3	2	1	0	0	4	0	3
児相・子ども家庭支援センター	2	15	13	5	1	3	25	6	3	2	24	10	10
児童福祉施設	2	0	3	3	3	2	12	3	3	0	12	1	10
インターネットで	1	0	2	3	0	0	0	0	1	1	3	1	4
テレビ番組	0	1	3	2	0	1	6	1	5	1	5	1	2
テレビCM	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
ラジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
新聞・雑誌	0	1	2	1	0	0	2	0	0	1	2	0	0
知人・友人	0	2	1	1	0	2	4	2	8	2	4	1	11
図書	0	0	2	1	0	0	1	2	0	1	1	0	3
公開講座	0	0	4	2	5	0	3	15	5	0	2	0	9
その他	2	2	5	1	2	6	18	5	10	1	6	2	7
不明・無回答	1	1	1	0	0	12	1	0	0	0	5	0	1
3. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）													
区報・市報で	1	15	9	1	4	4	24	8	1	5	14	4	8
都報で		4	1	0	0	0	3	0	1	0	2	1	4
ポスターで	0	2	5	1	1	1	2	5	0	0	5	1	3
チラシで	1	6	8	5	10	8	18	10	13	2	21	2	11
インターネットで	1	0	4	4	4	0	2	5	1	1	1	0	1
知人に勧められて	1	1	4	0	1	2	7	4	6	1	4	0	12
過去に参加	2	0	3	2	0	5	8	3	1	0	8	3	9
問い合わせた	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	1
その他	2	0	3	1	1	1	21	12	9	3	8	4	12
不明・無回答	0	0	2	0	0	12	2	1	3	0	3	2	0
4. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）													
養育家庭になりたいと思っていたから	2	2	1	3	4	0	2	1	4	0	2	0	5
養育家庭制度に興味・関心があったから	2	5	10	4	6	7	24	19	11	3	14	3	24
子育てに関わる話が聞けると思ったから	0	7	8	2	3	9	27	10	7	1	19	8	9
仕事や学問などの参考にするため	2	3	16	1	7	7	33	17	13	2	22	4	22
その他	2	3	2	2	1	4	4	1	2	3	20	4	4
不明・無回答	0	1	2	0	0	12	2	1	1	0	2	0	1
5. 相談コーナーを利用されますか。または、利用しましたか。													
はい	0	2	1	7	0	0	0	0	0	0	2	3	3
いいえ	4	13	28	3	18	22	74	33	22	2	41	13	34
不明・その他	3	6	5	0	0	0	0	4	0	7	7	1	0
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。													
とても良かった	1	12	18	4	17	14	37	28	24	6	31	14	38
良かった	3	6	15	5	0	5	28	7	3	2	17	1	4
普通	1	1	1	0	1	0	3	0	0	0	1	0	0
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	2	2	0	1	0	15	6	2	3	1	1	2	2
感想数	5	13	25	5	11	10	23	26	23	5	17	10	27
アンケート回答	7	21	34	10	19	22	74	37	30	9	50	17	44
参加者総数	27	34	59	23	36	34	103	42	42	17	76	33	144

平成 26 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/21 練馬区	11/21 小金井市	11/22 国立市	11/22 杉並区	11/26 中野区	11/28 東村山市	11/28 多摩市	11/29 北区	11/29 狛江市	11/29 大田区	11/30 荒川区	12/15 江戸川区	総計
①性別 男性	3	4	16	5	6	0	2	6	9	9	7	28	291
女性	57	8	26	24	20	10	25	28	23	47	34	98	1,357
不明・無回答	0	1	1	0	0	0	2	1	1	0	2	2	49
②年齢 ～ 20 代	3	2	8	7	9	3	1	18	12	5	2	3	236
30 代	12	2	4	8	8	0	7	2	4	3	3	15	220
40 代	15	4	14	7	6	2	10	6	4	8	9	29	325
50 代	20	2	4	5	3	3	9	5	2	13	11	36	364
60 代	9	3	6	2	0	2	1	3	7	21	10	37	411
70 代～	1	0	7	0	0	0	0	1	3	6	5	8	109
不明・無回答	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	31
③所属 一般	16	4	21	15	9	3	12	15	9	8	12	23	450
民生児童委員	3	0	5	0	0	0	0	0	8	29	12	43	394
主任児童委員	13	2	1	0	0	2	0	0	0	9	5	5	102
養育家庭	1	1	0	0	1	1	3	1	0	1	3	4	86
フレッドホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
都職員	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	5	49
区市町村職員	11	0	0	0	0	1	3	2	1	2	4	23	163
学生	1	1	7	7	7	3	0	14	11	2	2	3	162
その他	12	4	8	2	7	0	4	3	4	2	3	21	222
不明・無回答	1	0	0	0	0	0	7	0	0	3	2	1	59
2. 養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）													
区報・市報・ホーム ページ	23	6	13	9	6	2	5	5	14	23	21	47	623
ポスターで	6	5	1	0	2	0	2	2	3	6	3	12	117
児相・子ども家庭支援 センター	16	3	16	2	1	3	13	4	3	22	12	31	497
児童福祉施設	4	3	4	0	1	0	2	2	2	2	0	11	153
インターネットで	3	1	4	6	2	3	1	1	0	1	2	1	74
テレビ番組	3	0	2	1	0	0	1	1	0	6	2	13	107
テレビ CM	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8
ラジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
新聞・雑誌	7	0	5	0	0	1	0	1	2	1	1	8	72
知人・友人	2	1	9	2	1	0	2	6	1	1	6	7	153
図書	4	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	2	31
公開講座	7	1	2	4	5	2	4	10	7	2	0	6	148
その他	9	2	0	2	5	2	6	8	8	15	7	26	314
不明・無回答	3	0	10	0	0	0	1	1	3	1	4	7	74
3. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）													
区報・市報で	13	5	9	2	3	1	2	1	4	13	14	25	382
都報で	2	1	2	0	0	0	0	1	1	2	2	3	71
ポスターで	4	4	3	0	3	0	1	10	0	7	5	4	108
チラシで	21	6	9	5	4	4	5	3	9	15	14	33	462
インターネットで	4	1	4	12	5	1	1	2	3	2	4	4	113
知人に勧められて	2	1	10	0	0	2	1	5	3	3	5	7	157
過去に参加	7	0	1	1	0	1	3	1	7	7	5	15	198
問い合わせた	1	0	1	2	0	0	0	1	1	1	0	3	31
その他	15	2	16	0	3	3	16	13	13	17	6	47	447
不明・無回答	5	0	3	0	0	0	2	0	0	4	5	4	79
4. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）													
養育家庭になりたいと 思っていたから	3	1	5	4	2	1	3	3	4	7	2	3	115
養育家庭制度に興味・ 関心があったから	24	8	20	17	5	5	5	13	12	15	13	37	630
子育てに関わる話が 聞けると思ったから	19	2	12	2	6	2	8	5	5	12	21	40	482
仕事や学問などの参 考にするため	22	6	13	7	12	4	8	17	16	11	9	27	551
その他	5	1	8	1	1	2	10	0	5	6	4	24	214
不明・無回答	5	0	1	0	0	0	4	1	2	4	3	4	77
5. 相談コーナーを利用されますか。または、利用しましたか。													
はい	1	1	7	0	0	1	2	3	3	3	0	3	107
いいえ	59	9	32	18	20	6	23	24	27	43	32	103	1,340
不明・その他	0	0	4	0	0	0	4	0	0	10	0	0	128
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。													
とても良かった	23	10	34	21	17	3	18	23	23	30	30	47	1,007
良かった	26	2	9	8	5	3	8	11	8	20	9	59	501
普通	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	10	35
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	8	1	0	0	0	4	3	1	1	5	4	12	144
感想数	19	8	29	16	12	10	21	16	20	32	29	54	925
アンケート回答	60	13	43	29	25	10	29	35	33	56	43	128	1,684
参加者総数	120	18	80	41	56	10	40	48	44	56	50	159	2,665

養育家庭制度は、いろいろな理由で親と一緒に暮らすことができない子供たちを、養子縁組を目的としないで、家庭に迎え一緒に生活し、養育していただく里親制度です。

【ほっとファミリー(養育家庭)を、詳しく知りたい。】

★ 申し込み資格は？

- 都内にお住まいで 25 歳以上 65 歳未満のご夫婦。
※ただし、65 歳以上であっても短期条件付・レスパイト限定付にお申し込みできます。
配偶者がいない場合は、子供の養育経験又は保育士や看護師の資格があり、かつ、
養育の補助ができる 20 歳以上の子又は父母等が同居している方。
- 居室が 2 室 10 畳以上ある。

★ どのような子供を預かるの？

- 親の離婚、家出、病気、虐待等の理由で、親と一緒に暮らすことができない、おむね 18 歳までの子供です。

★ 預かる期間は？

- 原則として 1 か月以上です。
- 2 年を超える場合、2 年ごとに子供を継続して預かるかどうかの意思を確認させていただきます。

★ 養育に係る費用は？

- 日常生活や教育費などの養育費は、児童養護施設等に入所している児童と同等の額が支払われます。
- 養育家庭への手当が支払われます。

★ 養育に必要な支援は？

- 児童相談所が中心となって支援を行います。
- 養育に疲れた場合には、子供の養育から一時的に離れて休息できる制度があります。
- ほっとファミリー同士が集う相互交流の機会があります。
- 経験豊富なほっとファミリーが電話で相談に応じます。
- 研修などに参加し、養育に必要な知識を学ぶことができます。

【養育家庭制度に関するお問い合わせ先】

東京都福祉保健局 少子社会対策部 育成支援課 里親係

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話 03-5320-4135

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>



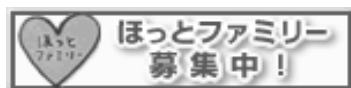
ほっとファミリー

ウェブ検索



こちらのホームページもご覧下さい。

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>



養育家庭体験発表集
平成27年9月発行

登録番号(27)149

発行 東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話03(5320)4135 ファクシミリ03(5388)1406
印刷所 東京コロニー 東京都大田福祉工場
東京都大田区大森西二丁目22番26号
電話03(3762)7611